

平成 27 年度 札幌市行政評価

市民参加ワークショップ



報告書

札幌市 市長政策室

平成 27 年（2015 年）12 月

目次

I. 市民参加の取組の概要.....	1
1. 市民参加の取組の概要.....	1
2. ワークショップにおける議論のテーマと選定理由	2
(1) 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり	2
(2) 市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり	2
3. 参加者について	3
(1) 参加者の選定方法	3
(2) 各回の参加人数.....	3
(3) 参加者の属性.....	4
4. ワークショップ開催までの流れとワークショップのプログラム.....	5
II. 第1回ワークショップの記録.....	6
1. プログラム.....	6
2. 第1回ワークショップの目的.....	6
3. 行政評価の取組やワークショップについての説明	7
4. ワークショップ「質問で理解を深めよう」	9
III. 第2回ワークショップの記録.....	17
1. プログラム.....	17
2. 第2回ワークショップの目的.....	17
3. ワークショップ「テーマに関して市民目線から見た現状と課題」	18
4. ワークショップ「市民目線で評価する札幌市の取組の良い点、問題点」	21
IV. 第3回ワークショップの記録.....	30
1. プログラム.....	30
2. 第3回ワークショップの目的.....	30
3. ワークショップ「市民目線で提案する改善点、市民の役割」	31
4. ワークショップ「行政評価シートにまとめよう」	34
V. 参加者アンケートのまとめ	40
VI. ワークショップで使用了資料	45
1. 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり	45
2. 市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり	52

VII 各区での開催結果概要パンフレットの掲示	56
-------------------------------	----

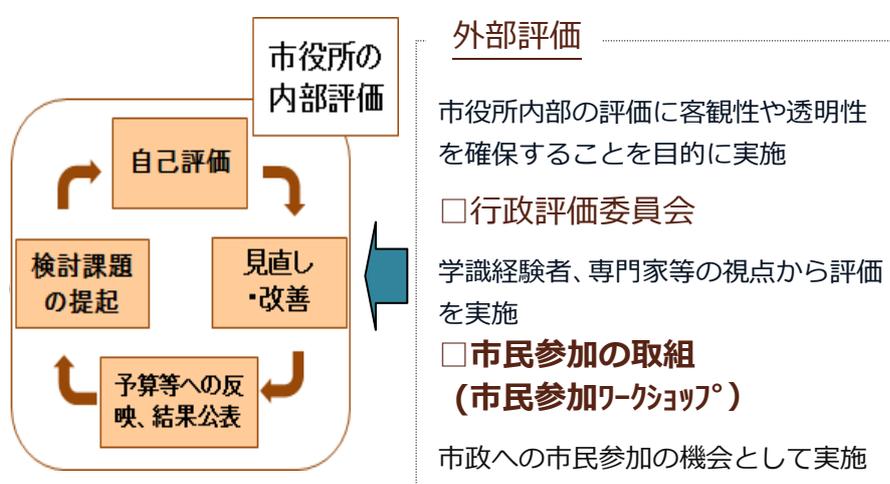
I. 市民参加の取組の概要

1. 市民参加の取組の概要

◆実施の目的

札幌市では、行政評価における外部評価の取組として、「市民参加の取組」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」を実施しています。

外部評価は、市役所内部の評価による客観性や透明性を確保するための取組で、この「市民参加の取組」は、市民の皆さまに札幌市の取組への理解を深めていただくとともに、行政評価へ直接参加する市民自治の実践の場とすることを目的としています。



◆取組の進め方

今年度の「市民参加の取組」は、市民生活への密着度が高い事業など、特に市民目線・市民感覚を踏まえる必要性が高いテーマについて、施策目的の実現のために、市の取組はどうあるべきかという観点からワークショップ（※）を行っていただき、市民の方のご意見・ご提言を伺うこととしました。

◆成果の活用

評価結果は、今後の事業の改善見直しに向けた検討材料の一つとしています。その結果、改善の方向性が明確になったものは、順次、予算編成へ反映させています。また、課題のあるものについては、中長期的な視点で引き続き見直しに向けた検討を行っています。

※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解しあいながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」のこと。

2. ワークショップにおける議論のテーマと選定理由

ワークショップにおける議論のテーマは、前述のとおり市民目線、市民感覚をふまえる必要性が高いものとし、次の二つを選定しました。その選定理由は次のとおりです。

(1) 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

◆選定理由

超高齢社会を迎え、市民が希望や生きがいを持ってすこやかに生活できる社会の実現を目指すためには、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命」を延伸させることが重要です。札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 21（第二次）」では、一人ひとりの状態に合わせた適切な運動に取り組む人を増やす（運動習慣のある人の割合の目標値：男性・女性とも 38%）、日常生活における歩数を増やす（15 歳以上の人の 1 日あたりの歩数の目標値：男性 9,000 歩、女性 8,000 歩）、等の取組を行うこととしています。

さらに、「札幌市スポーツ推進計画」の中では、スポーツ実施率（成人が週 1 回以上運動する割合）の目標を平成 34 年度で 65%とし、年齢や性別、障がいの有無を問わず、市民誰もがスポーツに親しめる環境を整え、スポーツを通して市民が、地域が、さっぽろが元気になる「スポーツ元気都市さっぽろ」を目指すこととしています。

市民の皆さんがもっと気軽にスポーツに取り組むことをつうじて健康づくりを進めるために、札幌市の施策の課題や、力を入れて取り組む方向性を市民目線で考えていただくため、ワークショップにおける論点を「市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり」としました。

(2) 市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり

◆選定理由

札幌市の特色あるスポーツ文化を積極的に推進するため、「札幌市スポーツ推進計画」では、「四季を通して、誰もが気軽にスポーツにふれられる環境をつくる」という方針のもと、市民がウィンタースポーツを楽しむ環境づくりを目指し、平成 34 年度におけるウィンタースポーツの実施率の目標値を 25%としています。

ウィンタースポーツ実施率が低迷（平成 26 年度は 12.6%）している中、市民の皆さんが子どもの頃からウィンタースポーツに親しみ、生涯スポーツとして気軽に楽しむために、札幌市の施策の課題や、力を入れて取り組む方向性を市民目線で考えていただくため、ワークショップにおける論点を「市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり」としました。

3. 参加者について

(1) 参加者の選定方法

ワークショップの参加者の選定にあたっては、ドイツで考案された市民討議の手法で、政策判断に有効とされる「プランニング・セル※」を参考にし、無作為抽出の市民に参加者募集のご案内を送付した上で、参加を受諾した方の中から、以下のとおり選定しました。

- ・参加者募集のご案内送付：無作為抽出の20歳以上の市民3,000名
- ・参加定員：48名
- ・参加受諾者：48名
- ・参加者：41名

●参加者募集のご案内の概要

○参加資格（以下の全てを満たす方）

- ・「参加承諾書」をご提出いただいた方
- ・現在札幌市在住の方（転居等で札幌市外へ転出された方は応募できません）
- ・札幌市職員ではない方
- ・全3回に出席できる方
- ・ワークショップは公開で行い、報道機関による撮影や傍聴者が会場に入ること、参加者個人が特定できる形で記録を公開する可能性があることに承諾いただける方

○謝 礼：クオカード（5,000円）

○その他

少しでも多くの方に参加いただけるよう、ワークショップ当日は託児室を設けること、車いす使用等でお手伝いが必要な場合は対応可能な旨を付記しました。

(2) 各回の参加人数

また、参加者には二つのうち希望するテーマを選んでいただき、グループに分かれてワークショップを行いました。各回の参加人数等は以下のとおりです。

テーマ	第1回	第2回	第3回	グループ数	1グループの人数
スポーツと健康づくり	29名	26名	24名	4	最大8名
ウインタースポーツ	11名	9名	8名	2	最大6名
計	40名	35名	32名	6	—

※プランニング・セル：無作為抽出の市民に謝礼を支払って参加していただき、少人数で議論を行う手法で、無作為抽出により選ばれた参加者は、性別、年齢、居住地などの面から市民の縮図となるため、少人数であっても、市民意見を代表する公平な議論が行なわれることが期待される。

(3) 参加者の属性

ワークショップ当日の参加者の属性については以下のとおりです。グループ編成については、年齢や性別、居住区などの属性ができるだけ異なるようバランスに配慮しました。

【性別・年代別】

(単位:名)

対象テーマ	年 代							総 計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代		
スポーツと健康づくり	1	1	7	5	9	7	30	
男性	0	0	2	2	5	4	13	
女性	1	1	5	3	4	3	17	
ウインタースポーツ	0	0	2	2	5	2	11	
男性	0	0	2	0	4	2	8	
女性	0	0	0	2	1	0	3	
総 計	1	1	9	7	14	9	41	
男性	0	0	4	2	9	6	21	
女性	1	1	5	5	5	3	20	

【居住区別】

(単位:名)

対象テーマ	居 住 区										総 計
	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	
スポーツと健康づくり	9	2	2	2	1	1	2	0	6	5	30
ウインタースポーツ	4	0	2	0	0	2	0	1	1	1	11
総 計	13	2	4	2	1	3	2	1	7	6	41

4. ワークショップ開催までの流れとワークショップのプログラム

■ 参加者募集のご案内を発送（7月下旬）

■ 参加申込返送締め切り（8月上旬）

■ 参加受諾者への参加決定通知発送（8月中旬）

■ 参加者への事前送付資料発送（8月下旬）

■ 第1回ワークショップ（8月30日（日））

目的：「札幌市の取組を知ろう」

説明／札幌市における行政評価の取組や市民参加ワークショップの位置づけについて

説明／ワークショップの進め方について

説明／テーマに関しての札幌市の取組について

ワークショップ／「質問で理解を深めよう」

質問タイム

■ 第2回ワークショップ（9月12日（土））

目的：「札幌市の取組を市民目線で評価しよう」

説明／前回のワークショップでの回答の補足

ワークショップ／「市民目線から見た現状と課題」

ワークショップ／「市民目線で評価する良い点、問題点」

ワークショップ／「他のグループの話を聞いてみよう」

ワークショップ／「グループ意見を見直してみよう」

■ 第3回ワークショップ（9月26日（土））

目的：「改善の提案などを評価シートにまとめよう」

ワークショップ／「前回のワークショップの振り返り」

ワークショップ／「市民目線で提案する改善点、市民の役割」

ワークショップ／「行政評価シートにまとめよう」

行政評価の結果発表

Ⅱ. 第1回ワークショップの記録

開催日時：平成27年8月30日（日） 9:30～12:30

開催場所：札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目） 4階 大研修室A～C

1. プログラム

第1回ワークショップのプログラムは以下のとおりです。

第1回プログラム	
時間	内容
9:30～	開会
9:35～	行政評価の取組について
9:40～	ワークショップの進め方について
9:50～	移動（テーマごとに会場が分かれます 5・6テーブルの方は大会議室Cへ）
9:55～	対象テーマに関する札幌市の取組説明 テーマ①「市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり」 テーマ②「市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり」
10:35～	休憩
10:45～	グループワークショップ「質問で理解を深めよう」
11:30～	質問タイム
12:20～	お知らせ
12:30	閉会

2. 第1回ワークショップの目的

【札幌市の取組を知ろう】

- ① 参加者にワークショップの目的や進め方、行政評価における位置づけ、結果をどのように施策や事業に反映しているかなどを理解してもらう。
- ② 評価対象施策及び、検討テーマ（論点）、検討テーマに関連する事業内容など議論に必要な情報を提供し理解を深めてもらう。
- ③ 参加者に話しやすい雰囲気を実感してもらい、ワークショップへの参加意欲を持ってもらう。

3. 行政評価の取組やワークショップについての説明

「行政評価の取組について」、「ワークショップの進め方について」の説明には、以下の資料を配布し、スクリーンで投影して説明しました。

また、対象とするテーマの説明については、第Ⅶ章にある資料を用いて、各担当部局から説明を行いました。

平成27年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

第1回 ワークショップ

平成27年8月30日（日）

本日のプログラム	
時 間	内 容
9：30～	開会
9：35～	行政評価の取組について
9：40～	ワークショップの進め方について
9：50～	移動（テーマごとに会場が分かれます 5・6テーブルの方は大会議室Cへ）
9：55～	対象テーマに関しての札幌市の取組説明 テーマ①「市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり」 テーマ②「市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり」
10：35～	休憩
10：45～	グループワークショップ「質問で理解を深めよう」
11：30～	質問タイム
12：20～	お知らせ
12：30	閉会

※進行状況により、多少時間が前後する場合がありますのでご了承願います。

札幌市の行政評価の取組について

1. 行政評価の役割

- 行政評価の役割は、次の通りです。
 - 札幌市の取組を振り返るため
⇒全ての取組を対象に毎年度実施
 - 自己改善のための仕組みとして
⇒診断結果を踏まえて、事業を改善
 - 市民の皆様への市政情報提供のため
⇒評価結果は区役所で資料配布、ホームページで公表

2. 行政評価の流れ

■外部評価
市役所内部の評価に客観性や透明性を確保することを目的に実施

□行政評価委員会
学識経験者、専門家等の視点から評価を実施

□市民参加の取組
(市民参加ワークショップ)
市政への市民参加の機会として実施

3. 外部評価について

- 外部評価の目的
市役所内部の評価に客観性や透明性を確保するため
- 行政評価委員会
学識経験者、専門家から構成される委員会において、有効性、効率性等の観点から評価を実施
- 市民参加ワークショップ
納税者としての、又地域に密着した生活者としての観点から評価を実施
行政評価（市政）へ直接参加する市民自治の実践の場

市民参加ワークショップの進め方

■ ワークショップとは

いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を耳を傾けながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」です。



話し合いは、話しやすい雰囲気や、お一人の発言時間をできるだけ多く取れるように、6～9人のグループに分かれて進めます。各グループには、話し合いの進行やまとめをお手伝いするスタッフを1名配置します。また、話し合いの途中で知りたい事があれば、その場で札幌市の担当者から答えていただけるようにします。



今回の市民参加ワークショップでは、性別、年齢、居住地のバランスを考慮して無作為抽出で選ばれた市民の皆様の中から、参加をご了解いただいた方々によって、2つのテーマに分かれて話し合います。

テーマ1：市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

テーマ2：市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

■ 第1回ワークショップ（8月30日（日）） 目的：「札幌市の取組を知ろう」

説明/札幌市における行政サービスの取組や市民参加ワークショップの位置づけについて
説明/ワークショップの進め方について
説明/テーマに関する札幌市の取組について
ワークショップ/「質問で理解を深めよう」
質疑タイム

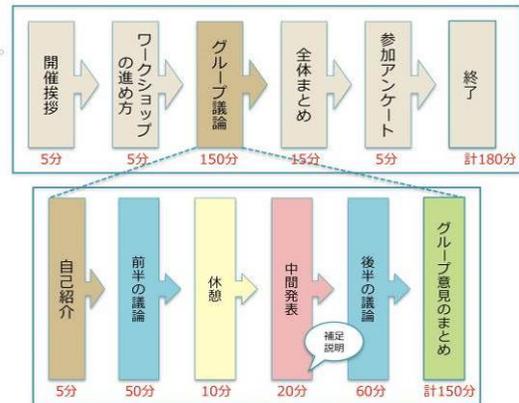
■ 第2回ワークショップ（9月12日（土）） 目的：「札幌市の取組を市民目線で評価しよう」

ワークショップ/「市民目線から見た現状と課題」
ワークショップ/「市民目線で評価する良い点、問題点」
ワークショップ/「他のグループの話を聞いてみよう」
ワークショップ/「グループ意見を整理してみよう」

■ 第3回ワークショップ（9月26日（土）） 目的：「改善の提案などを評価シートにまとめよう」

ワークショップ/「前回のワークショップの振り返り」
ワークショップ/「市民目線で提案する改善点、市民の役割」
ワークショップ/「行政評価シートにまとめよう」
行政評価の結果発表

ワークショップの流れ（予定）



付箋紙に書かれた意見は、似た内容の意見ごとにまとめ、くくりの言葉をつけていきます。



他のグループの意見の内容を聞くことで、また新たな気づきが生まれます。

4. ワークショップ「質問で理解を深めよう」

テーマに関連したこれまでの札幌市の主な取組・施策の説明に対して、グループごとに質問事項を出し合い、「質問カード」にまとめました。各グループで出された「質問カード」は、類似の質問は集約し、ホワイトボードに貼り出しました。それぞれの質問について、各担当部局が回答し、回答内容は模造紙に書き出しました。

各テーマの質疑の内容は次のとおりです。このうち、「次回回答」、「補足」、「訂正」は、第2回のワークショップにおいて回答等がされた内容です。

● 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

No	参加者からの質問	札幌市からの回答
1	スポーツ実施率が毎年UPしている理由は何か？特に60～70代が高い理由は？（1グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に60～70代は自由な時間が多く、スポーツ施設に行っても高齢の方が多く見える。若い方のスポーツ離れの問題もある。 ・実施率が上がっている原因としては、日ハム、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダなど札幌を拠点としたプロスポーツチームの活躍の影響が大きい。 ・ウォーキングの実施などにより裾野も広がっている。 ・25年度のウインタースポーツ実施率が前回の11%から13%に増えたのは、ソチオリンピックでの選手の活躍が考えられる。
2	スポーツ実施状況の夏と冬の違いは把握しているか？（1グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・夏と冬の季節では把握していないが、スポーツの種目（ウインタースポーツ）で実施率を把握している。 ・冬場の降雪もあり、冬の実施率は低いものと思われる。
3	スポーツ全体の事業予算は？（スポーツ部）（1グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・54億円➡最終的には約70億円（市全体予算8,700億円） ・札幌と同じ規模の都市と比較して、多いのか、少ないのか？ <p>→次回回答</p> <p>【スポーツ部回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市の平成27年度一般会計予算（補正後）は、約9,200億円。（当初予算は約8,700億円） ・このうち、スポーツ関連予算は約72億円（0.78%）。これは、振興に関する予算と、施設の維持管理に関する予算を合計したもの。 ・予算編成の違いにより、同じ考え方で他都市の予算と比較するのは困難だが、内容として、札幌市はウインタースポーツ関連の取組という特色がある一方で、大会への支援や学校開放事業など、共通した取り組みも見られる。

4	医療費への「貢献」はどの程度？（1グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の数値を示すのは難しい。 <p>【保健所補足】</p> <p>国が都市政策を検討するために実施した都市再構築戦略検討委員会では、1万人の1日あたりの歩数が2,000歩増加することにより、年間4億円の医療費抑制効果が期待できると試算結果が発表されている。</p>
5	都市部中心の施策が多い印象があるが、周辺にはどんな施策があるのか？（4グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都心に集中している認識は無いが、スポーツイベントが多い印象があるのかもしれない。 ・ 周辺地域のかたが身近に行けるようなスポーツイベントについては把握していない。 <p>→次回回答</p> <p>【スポーツ部回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各区において、区役所などの主催により、施設や広場などを活用した様々なイベントが行われている。（平成25年度 全市で147大会） ・ これらの取組について、さらに皆さんに知っていただけるよう、区役所とも連携しながら工夫していきたい。
6	障がい者が一般の人と同じ様にスポーツに参加できているのか、具体的に知りたい。（1グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育施設のバリアフリー化を進めている。 ・ 補助の方の利用料金はかからない。 ・ 障がい者の大会の受け入れ施設を市内で調整している。
7	「健康寿命」について、もっと具体的に説明を。（2グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の定義では、健康上の問題なく日常生活ができる期間。 ・ 計算の基礎となっている国民生活基礎調査では、個人の主観的な回答。
8	健康運動指導士ってどういう人？資格は？（1グループ）	<p>→次回資料</p> <p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康運動指導士とは保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者。昭和63年から厚生大臣の認定事業として開始され、平成18年度からは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団独自の事業として実施。 ・ 登録している健康づくりサポーターの活動は様々であり、普段はスポーツクラブ、健康づくりセンターやカルチャー講座での指導、各種団体からの依頼に応じて運動指導を実施。 ・ サポーター派遣時における指導は、ストレッチ体操、筋力アップトレーニング、ウォーキング指導、あへあほ体操など、派遣希望者からの要望に応じた内容で運動指導を実施。

9	<p>スポーツができない理由は？（きっかけの裏返し？）（1グループ）</p> <p>目標値を達成した指標はありませんでした。その原因は検証されている？（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な要因がある。（時間がない、車移動など） ・スポーツ実施率は伸びてはいるが、目標値には届いていない。 <p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終評価で、運動をしない理由をアンケートで分析しており、若い世代で「時間がない」などの理由が明らかになった。その結果も踏まえた取組の一環として、ウォーキング推進キャンペーン事業を展開した。
10	<p>他都市で参考にしたい事例などはあるか？（4グループ）</p>	<p>→次回回答</p> <p>【保健所回答】</p> <p>○健康ポイント事業（横浜市、岡山市など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングや、健診受診などの健康づくりに取り組んだ際に「健康ポイント」をもらうことができ、ためたポイントに応じて賞品をもらえたりする仕組みを作り、市民の健康づくりを促進している。 <p>【スポーツ部回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で直接参考にした事例はないが、政令指定都市等のスポーツ所管部局が集まる会議が毎年定期的で開催されており、その場で情報交換を行っているほか、他都市のスポーツ施設の活用状況を視察して参考にするなどの取組を実施している。
11	<p>「健康づくりセンター」の役割は何ですか？（認知度は高いものですか？）（3グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に3館（中央、東、西区）ある。市民の健康づくりが目的。 ・H26年度から要介護の予防が必要な方や、障がいのある方など、健康づくりの支援が特に必要な方を重視する対象者として特定し、健康状態の維持、回復、向上までを支援している。
12	<p>子どもの時からスポーツの楽しさや親しむ機会づくりは？教育委員会との連携はとれている？（1グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H13年まで教育委員会にスポーツ課があった。今も建物は教育委員会と同じ場所にあり連携できている。 ・小、中学の先生一人ずつがスポーツ部企画事業課の調査担当係長としてチームに入っており、教育委員会・学校を通じた取組は、その先生方と連携して行っている。
13	<p>2つの計画の中の「子ども」とは、何歳から何歳を指すか。（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画：中学生以下。 ・健康さっぽろ21（第2次）：すこやか親子21は、一般的には18歳未満。指標で出てくるものでは中学生以下が多い。

14	スポーツ推進計画の方針6にある「札幌の資源」とは具体的にどんなものをイメージされていますか？(3グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然、雪、食べ物、文化、芸術など。 ・オリンピックで使われた施設やプロスポーツチームも資源。
15	高齢者中心の計画に見えるが、子育て世代やフルタイムで働く人(20代女子など)へのアプローチはどう考えているのか？何かしているのか？(4グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンやサークルに来るお母さん達へ向けて、健康づくりについて周知を図っている。 <p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代への健康づくりを進めていくために、SNSなどを利用したアンケートを実施し効果的なアプローチ方法を検討する予定。 ・若い世代への取組の一つとして、通勤通学を利用した運動習慣の定着にむけて、地下鉄階段への健康メッセージを表示。 <p>【スポーツ部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、子育て世代やフルタイムで働く人に直接働きかけることを目的とした効果的な取組についてはまだ検討中の段階。今後効果的なアプローチを検討していきたい。
16	他の施策(子育てなど)との連携は図られているか？(4グループ)	<p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康さっぽろ21(第二次)」の取組状況の確認を関連部局と毎年実施 ・小中学校とは思春期教育での連携はあるが、健康づくりに特化した連携は今後の課題としたい。 ・上記15のとおり、子育て関連課には健康づくり事業の取組を説明し、利用勧奨や普及啓発を依頼
17	全小学校のプール設置率。全中学校のプール設置率。(2グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・7～8月の土日に各学校のタイミングで開放。200/208校。 ・小学校には全校に設置。中学校はあまりプールの授業がなく、設置は9校。
18	「スポーツ」の定義はどの範囲と捉えて議論したら良いのか？例えば、室内でのストレッチなども入るのか？(2グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ＝「体を動かすこと全般」 ・意図のある運動として、ストレッチも入る。 ・スポーツ実施率の対象となるのがスポーツ。 ・スキー、スケート、カーリングは1年に1回以上。 ・冬はグラウンドが使えないなど、北海道は課題がある。

19	<p>企業との連携は具体的にどんなものがあるのか？(4グループ)</p>	<p>健康づくり：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップを作成する際には、STV のラジオ番組でコーナーを取り上げて、中継してもらった。 ・「健康づくり推進協議会」のなかには、商工会議所も入っている。 ・3月に連携企業が集まって情報交換会を開催 <p>スポーツ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウインタースポーツ活性化協議会」の場に、スキー場事業者にラウンドテーブルに参加してもらっている。 ・北海道銀行に協賛金をいただいて、カーリングの普及推進事業にあてている。
20	<p>スポーツを取り巻く課題について、区ごとに状況が異なる中、どのような課題があり、どのような取組がされているのか？(2グループ)</p>	<p>区ごとの施策としては把握していない。</p> <p>→次回補足</p> <p>【スポーツ部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの各区スポーツ推進委員の会議において、それぞれの区に特化した課題は今のところ挙げられていない。 ・一方、担い手の高齢化といった共通の課題がある中で、スポーツ施設などの資源を活用しながら、様々な取組が行われている。
21	<p>「スポーツ振興基金助成金」はどのような内容か。(2グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会などに出場する市民に補助する。26年度 57件。 ・地域で主催する大会や教室に補助する。26年度 23件。
22	<p>広報が大事だが、どう伝えているのか？特に引きこもりがちな人にどう情報を届ける工夫をしているのか？(1グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報さっぽろ以外では、指定管理者の団体HPでの紹介や各体育館などでチラシを配架している。
23	<p>健康づくりサポーターはどうやったら参加できるのか？どう情報発信しているのか？(4グループ)</p> <p>サポーター派遣事業は人口に対して回数が少ない。告知はどのようにしている？(2グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートする専門家は45人登録。ホームページや広報さっぽろやチラシで情報発信している。サポートを受けたい人が増えなければサポーターの活躍の場がないので、十分な人数が集まっていると認識している。 ・サポートを受けたい人への周知を今後進める必要がある。事業の周知はチラシよりも口コミが有効と考えている。今年度は役所内のネットワークを活用し、区の地域振興や子育て担当の課や保健センターの健康づくり担当等へ事業の説明をして、町内会や子育てサロン等を通じて様々な世代に行き渡るようにしたい。 ・H27年度は180回/年の派遣を見込んでいるので、さらに周知をすすめたい。

24	アンケート 5,000 人は札幌市の人口に対して適切な数値なのか？18 歳以上 3,000 人。何人に対して何%の人に郵送？（2 グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に聞いた方が良いが、数が多くなるとその分お金もかかる。人口に対して適切な数値かどうか、あらためて調べてみたい。 <p>→次回補足</p> <p>【改革推進部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標達成度調査では、20 歳以上の成人市民 5,000 人にアンケートを行っているが、統計学上は標本数（アンケートの返送数）が 400 件あれば、95%の信頼度が得られるとされている。26 年度は、標本数が 2,002 件あったため、回答の信頼度は十分満たしている。また、過去の当該調査実績を踏まえ、400 件を下回らないという安全性の観点から 5,000 人という数値は、適切だと考えている。アンケートを実施した 26 年度の 20 歳以上の人口はおおよそ 162 万人であり、約 0.3%に郵送している。 ・市民の運動・スポーツ活動実態調査では、18 歳以上の市民 3,000 人にアンケートを行っている。18 歳以上の人口はおおよそ 163 万人（アンケートを実施した平成 24 年時点）であるため、約 0.2%に郵送している。
25	「スポーツ元気都市さっぽろ」の達成度をはかる指標はありますか？（例、子どもの運動能力が北海道は低いとよくテレビでみるが、それを 10 位以内にするなど）（3 グループ）	<p>【スポーツ部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、スポーツ実施率などスポーツ推進計画に掲げた指標をもってその達成度をはかることとしており、他都市との比較については指標に設定していない。
26	「目標値」の数字の根拠は？（4 グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・国の基本計画の目標値 65%（3 人に 2 人）を参考とした。 ・各指標の数字の上昇、下降原因は今後検証する必要がある。
27	ロコモティブシンドローム。なぜ、目標値が 80%？（2 グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・国：健康日本 21 で 80%を設定。 ・メタボリックシンドロームという言葉の認知度は 80%を目標に推進。➡92.7%になった。
28	スポーツ推進計画の成果指標、10 大会はどのような競技？（2 グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・2015：FIS ノルディックコンバインドワールドカップ。世界女子カーリング選手権（札幌初）。冬季種目を中心とした開催を予定。 ・2017：冬季アジア札幌大会、2018：日本スポーツマスターズ（札幌初）、2019：ラグビーワールドカップ、2020：オリンピックサッカー予選。 ・冬季種目を中心とした開催を予定。

● 市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

	参加者からの質問	札幌市からの回答
1	スポーツ推進計画は市の中でどれくらい力を入れているの？（マンパワー、予算が増えているかなど）（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを対象とした“部”がある（職員 30 名）。 ・スポーツ施設として 38 施設の運営も行っており、その維持管理を含めると予算も大きい。
2	高齢者の健康づくりの視点で、福祉計画とウインタースポーツの推進の取組は連携しているか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画でも健康づくりを位置づけ、連携している。
3	ウインタースポーツに対する行政施策のターゲットは？（年齢は 20 代以下なのか、中高年なのか？トップアスリートの育成なのか健康づくりなのか？）（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年代の市民を対象にしており、スポーツ推進により、まちを盛り上げ、経済の活性化にもつながるようにしていきたい。 ・スポーツをする人を増やす取組を進めている。トップアスリートの育成は競技団体が進めている。
4	スポーツの定義は？どんなものが対象か？（スキーだけでなく色々ある。雪合戦なども含むか？）（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・身体運動全てをいう。雪合戦は含む。 ・雪かきもスポーツと考えられるかもしれない。
5	障がいのある人や病気の人がスポーツをすることをサポートする体制はあるか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉計画の障がい者施策と連携している。 ・ハード面の対応として、施設のバリアフリー化を進めている。 ・パラリンピック誘致に向けて、競技力の向上に向けた検討を保健福祉部門と一緒に始めた段階。
6	札幌のウインタースポーツの環境は本当に良いのか？カーリングスタジアムは予約で一杯と聞いている。対人口比、使い易さ、開館の日数などのバックデータを知りたい。（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリングスタジアムの稼働率は80%。
7	世代別に考えた、スポーツの機会を設けるような取組をしているか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・全世代に対してスポーツに対する関心を高めたいと考えている。特定の世代をターゲットとして考えた施策は行っていない。
8	スポーツ実施率はウインタースポーツとギャップが大きい。冬はどういうスポーツに取り組んでいるの？冬にウインタースポーツ以外のスポーツをやっている人が多いということ？調べ方は同じ？（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで把握している（1,000 名）。調査項目はスポーツの競技種目と取り組んでいる回数。 ・スポーツ実施率は週に 1 回以上スポーツをする方に対して、ウインタースポーツの実施率は年に 1 回以上ウインタースポーツを実施する方の数字で出している。 <p>【訂正】 (1,000 名) →(平成 26 年度)5,000 名 (回収 2,002 名)</p>

9	小学校でのスキー授業の数やカリキュラムは？（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校を対象にした施策に力を入れており、小学校 202 校で 100%実施している。（H13～26 年度までずっと 100%） ・平均年間 10 時間（高学年は 2 回/年、スキー場に行っている。）
10	中学校の部活動（スキー部など）の数、データはあるか？（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインタースポーツの部活動はフルシーズン活動している部はほとんど無く、クラブチームがベースになっているが、中学校のスキー部、スケート部として大会などに出場している。 ・学校単位の身近な取組になると良い。
11	小中学校の競技大会はあるか？（競争も大切）（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・中体連にウインタースポーツの大会がある。小学校にも全国規模の大会がある。 ・小中学校の競技はクラブチームがベースになっている。学校単位の身近な取組になると良い。
12	スキー授業をサポートする人は、学校からのニーズが高いのか？インストラクター募集の方法は？（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は中学校 97 校のうち、93 校でスキー学習を実施した。うち 77 校で申込をもらった。 ・取り組んでいない 4 校のうち、スケートが 3 校、グラウンドでの雪の体育授業が 1 校。 （具体的にどんなことを？→次回回答）。 ・インストラクターは、スキー連盟にお願いして派遣してもらった。 <p>【回答】 グラウンドでの活動としては、「雪中運動会」を実施している。</p>
13	なぜ指導者派遣に部活を除いているの？（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・部活に地域の指導者等を派遣する取組は、教育委員会に別の仕組みがあるので、すみ分けている。
14	「健康づくり」はスポーツだけではない。もっと身近な、道具が不要な健康づくりの方策は無いか？（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングなどには区や健康づくりの部でも力を入れている。 ・ウインタースポーツでは、札幌市で「スノーホッケー」を考案もしたが、より身近なものの検討は課題。
15	ウインタースポーツキャラバン事業の、身近な公園とは、例えばどこか？大きい公園だけなのか？（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から申込をもらって、その近隣の公園で実施。 ・「雪に親しむ」をテーマに雪まつり後の大通公園でも実施した。
16	親子をターゲットとしてウインタースポーツの機会をつくる取組はあるか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインタースポーツキャラバンもその取組の一つ。 ・次の世代に繋げていきたいので、親子をターゲットにした施策に力を入れていきたい。
17	子どもとトップスポーツ選手との接点。どういうものを実施しているのか、していたか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・プロの試合に招いたり、直接指導を受けたりできるなど直接のふれあいに取り組んでいきたい。 ・「アスリートによる出前教室～ようこそ！ユキセン」事業などもその取組の一つ。

Ⅲ. 第2回ワークショップの記録

開催日時：平成27年9月12日（土） 9:30～12:30

開催場所：札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目） 4階 大研修室A～C

1. プログラム

第2回ワークショップのプログラムは以下のとおりです。

第2回プログラム

時間	内容
9:30～	開会
9:35～	本日のワークショップの目的と進め方
9:40～	前回のワークショップでの回答の補足
9:55～	グループワークショップ 「テーマに関して市民目線から見た現状と課題」
10:40～	休憩
10:50～	グループワークショップ 「市民目線で評価する札幌市の取組の良い点、問題点」
12:10～	グループ発表 「他のグループの意見を聞いてみよう」
12:25～	お知らせ
12:30	閉会

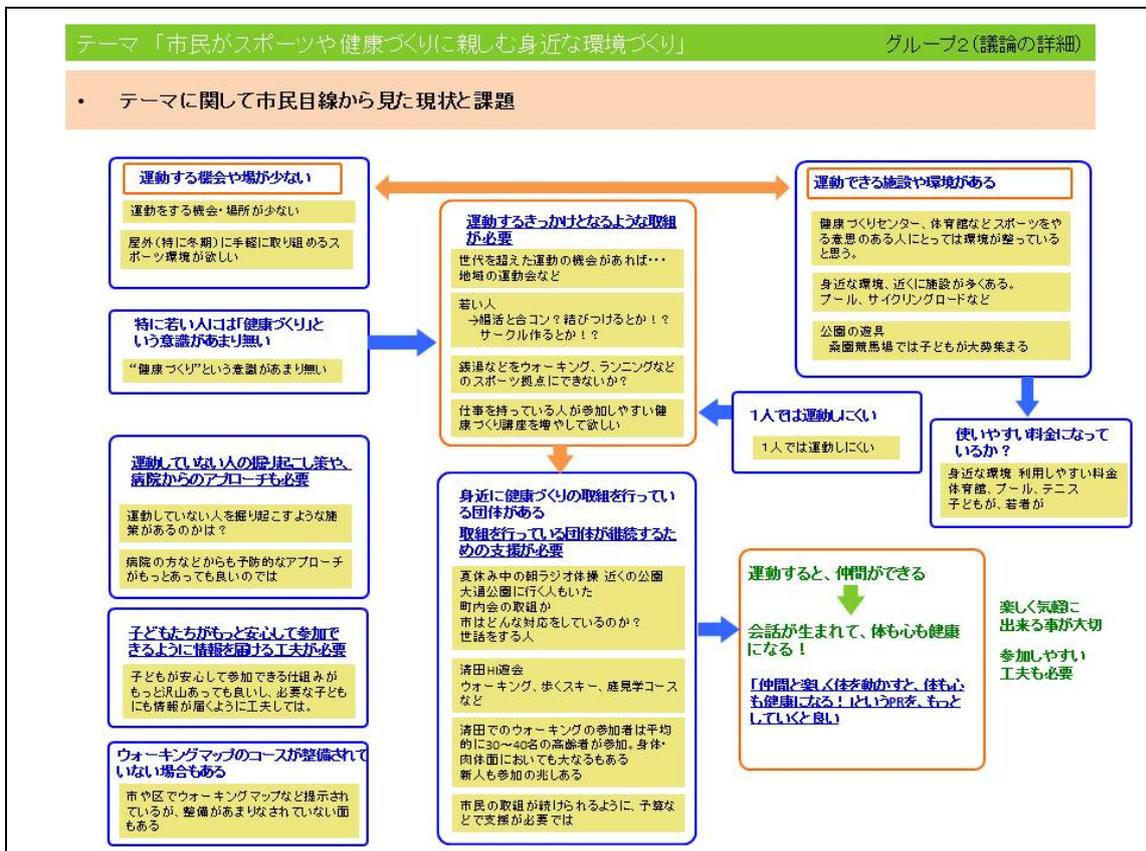
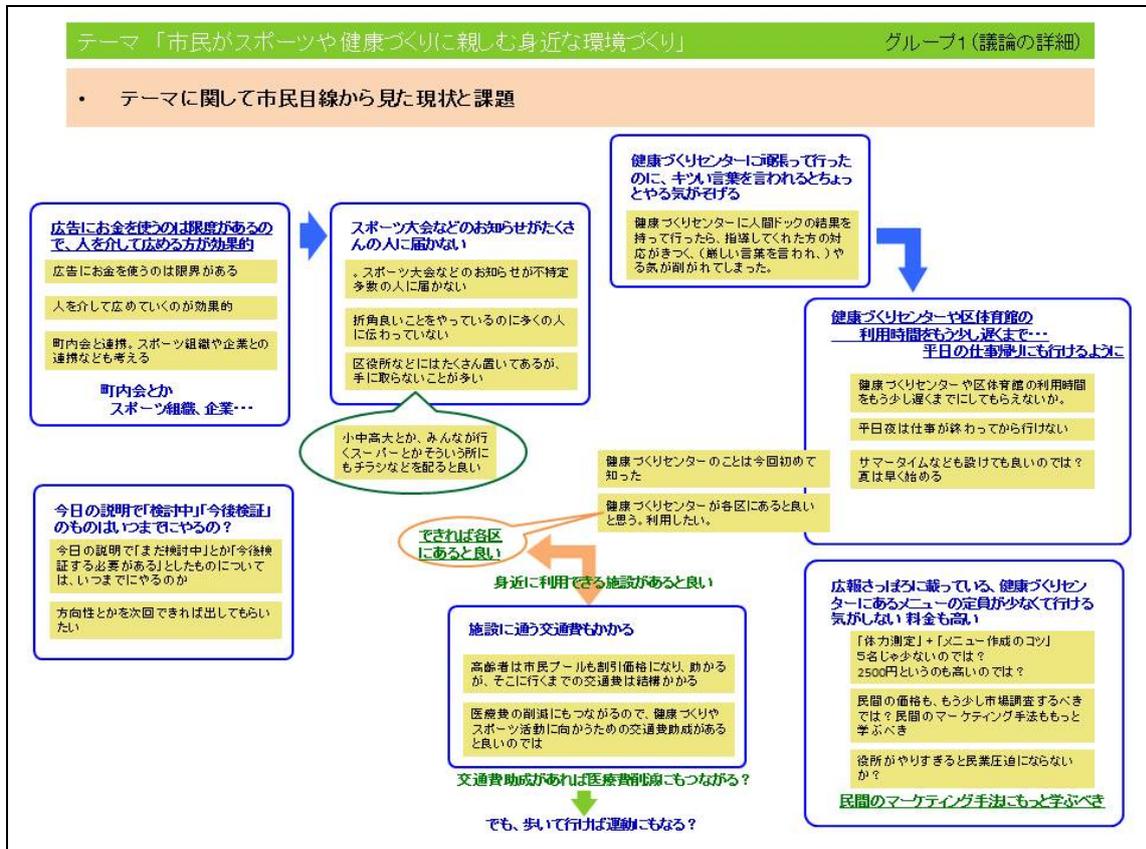
2. 第2回ワークショップの目的

【札幌市の取組を市民目線で評価しよう】

- ① 検討テーマ（論点）に関して、市民目線から見た現状と課題を話し合う。
- ② 課題に対して成果をあげているか、良い点、問題点について市民目線から評価する。
- ③ 自分の参加しているグループだけでなく、他のグループの議論のポイントなどを知り、意見の多様性の理解や気づきを促す。

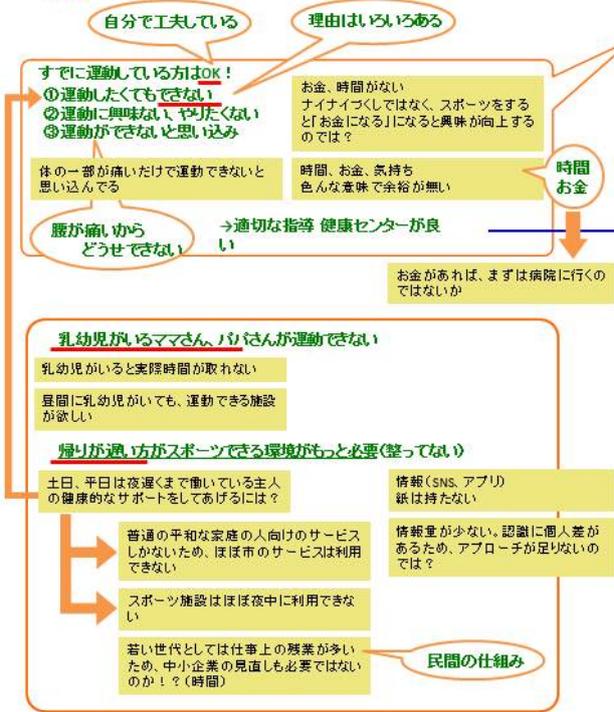
3. ワークショップ「テーマに関して市民目線から見た現状と課題」

テーマに関して、市民目線から見た現状と課題について、グループで意見を出し合いました。各グループの記録は次のとおりです。

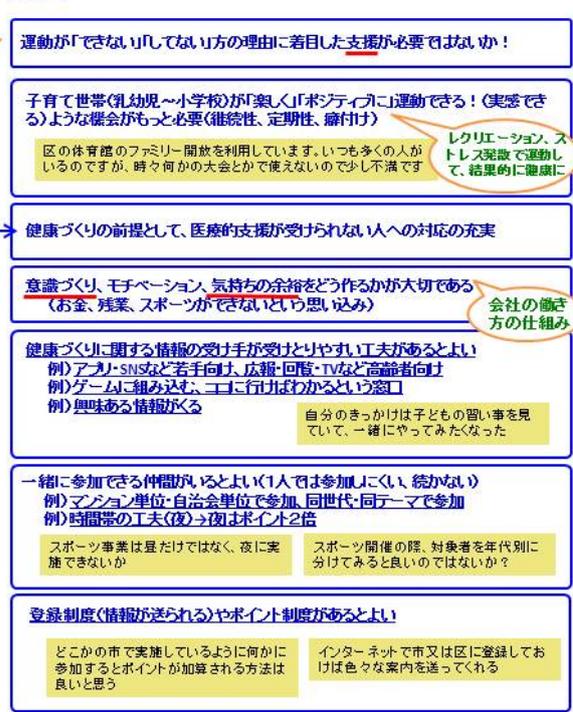


・ テーマに関して市民目線から見た現状と課題

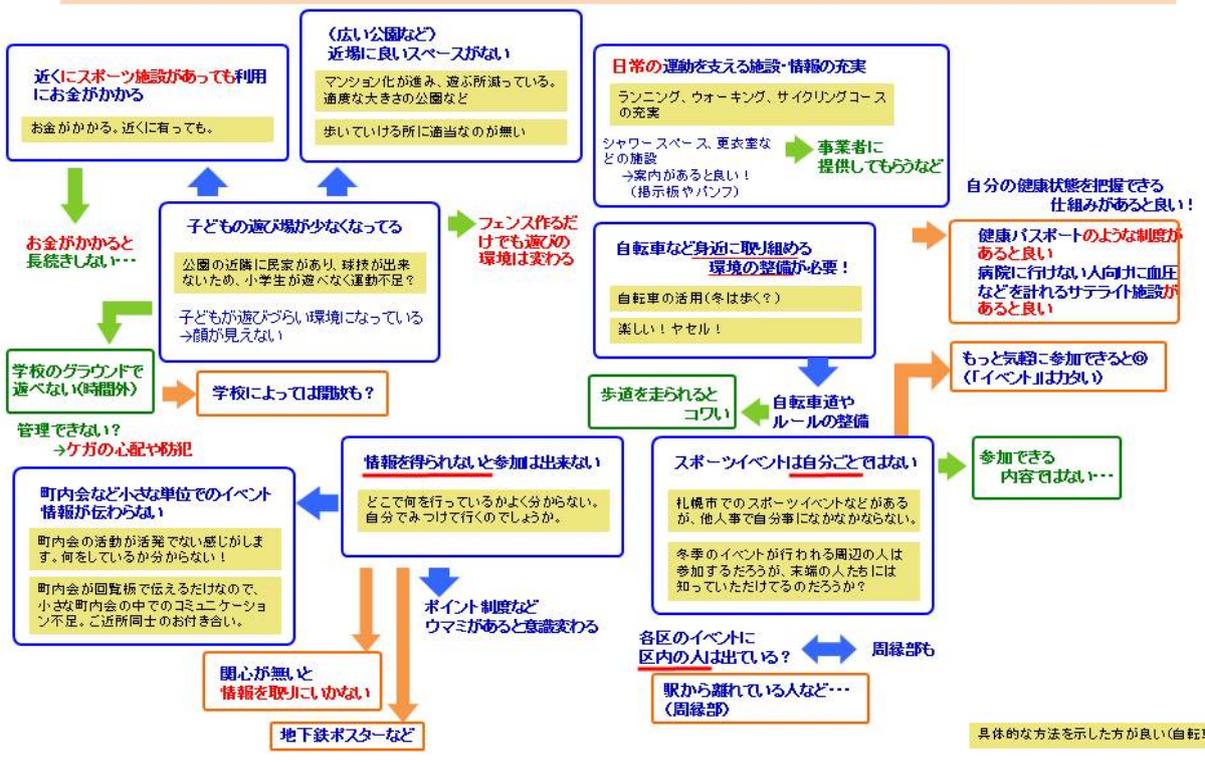
現状



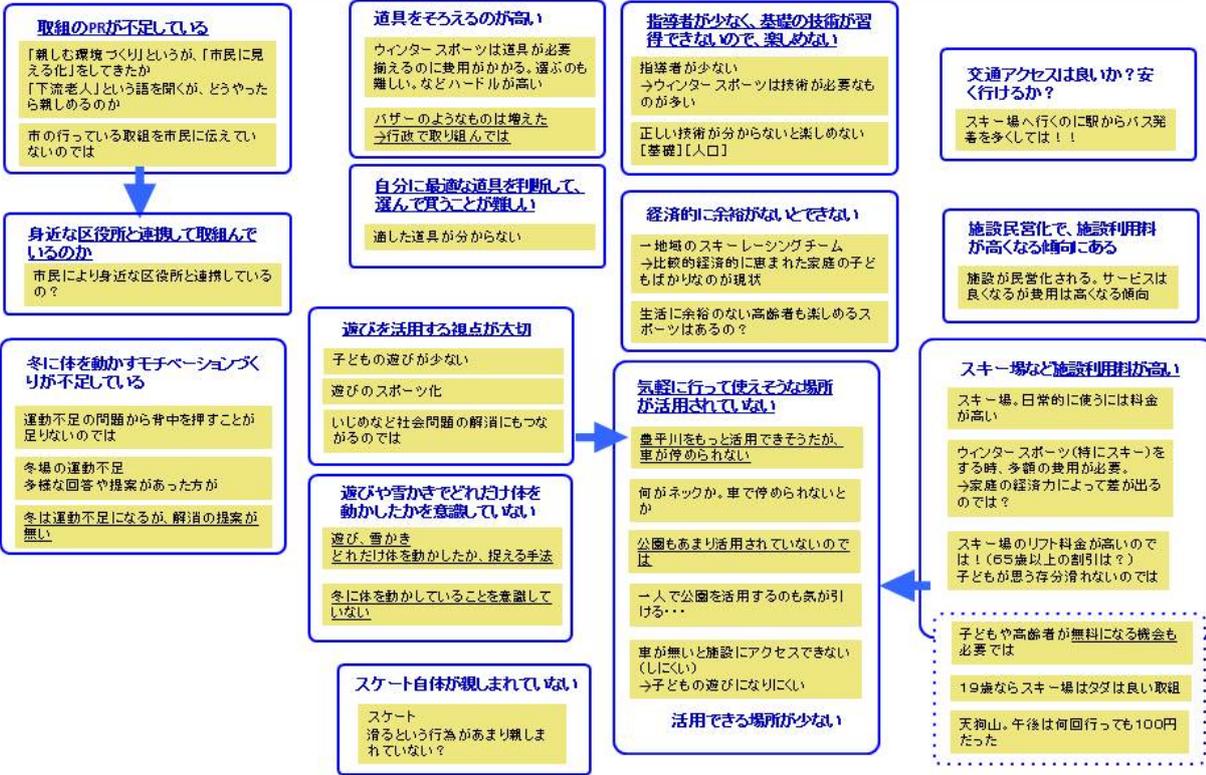
課題



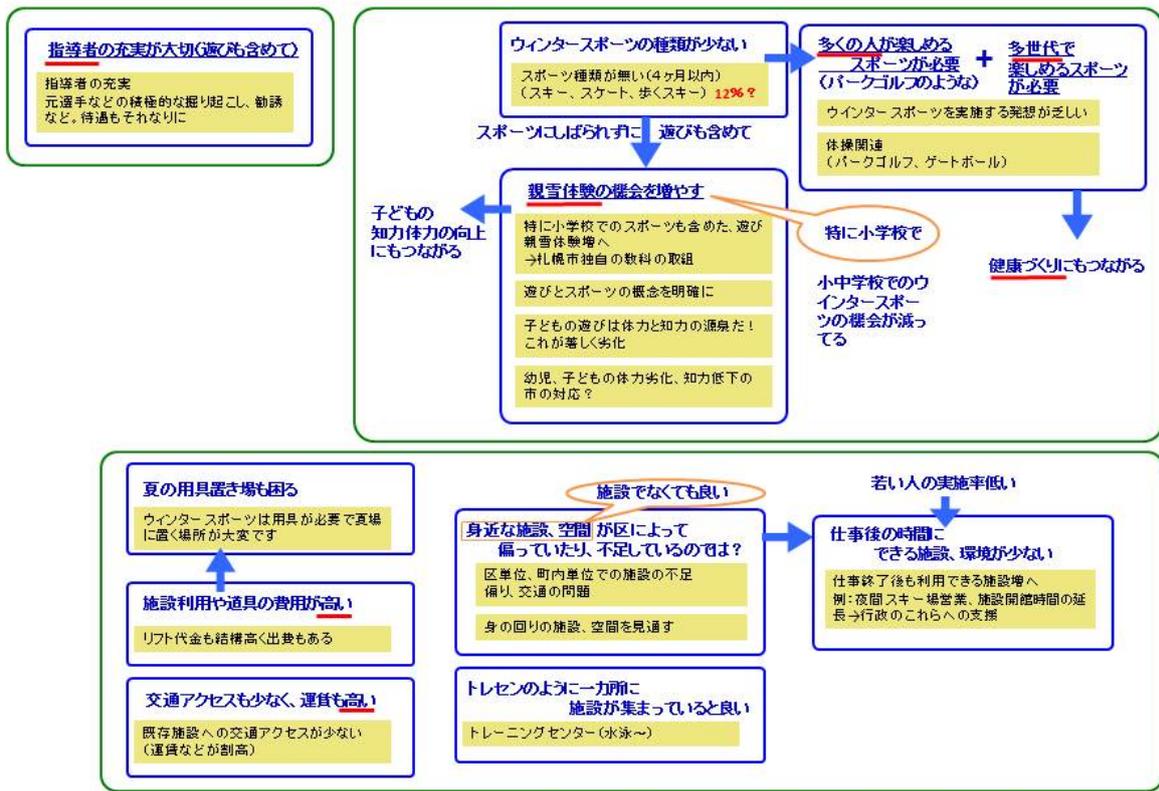
・ テーマに関して市民目線から見た現状と課題



・ テーマに関して市民目線から見た現状と課題



・ テーマに関して市民目線から見た現状と課題



4. ワークショップ「市民目線で評価する札幌市の取組の良い点、問題点」

テーマに関する事業（配布資料 P46～P56）が成果をあげているか、良い点・問題点を出し合いました。特に重要だと思った意見や共感した意見に、それぞれシールを3枚貼って投票しました（うち1枚はイチ推しシール）。

各グループの記録は次のとおりです。なお下線を引いた箇所については、提案になっているので第3回ワークショップの意見出しの参考としました。各グループの記録は次のとおりです。

（●：シール投票 ①：イチ推しシール ⇒：関連意見）

● 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

< 1 グループ >

事業名	良い点	問題点
スポーツ推進委員		
スポーツ事業促進助成		
学校開放事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館などを借りるのはお金がかかるので安く借りられるのは良い ・ 身近な施設を利用できるというのはとても良い。①● 	<ul style="list-style-type: none"> < なかなか予約が取れない > ●● ・ 同じグループが同じ曜日・時間帯をおさえている ・ やりたい人は多いがなかなかとれないという話を聞く
オリンピックズキャラバン事業		<ul style="list-style-type: none"> < 授業への派遣をもっと増やしてほしい > ・ 町内会や体育振興会などの行事という限られた人数のイベントでなく、<u>小中学校の授業に、どんどんトップアスリートを派遣すべき</u> ● ⇒ 小さい頃からの意識づけに
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1972年の札幌オリンピックは市民にとって大きな刺激になった。<u>見るスポーツとして大きな大会があればさらに良い。</u> ●●● ・ ウィンタースポーツにかかる費用が高く市民が取組みづらい（リフト券が高い、ウェアが高い、交通費が高い） 	
ウォーキング実践指導ボランティア研修		
市民交流 ウォーキング大会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加人数が少ないのではないかと（市）あまり大人数で歩くと危険なので300名を定員としているが、人気ですぐに定員が埋まってしまう ⇒ もっと回数を増やしても良いのでは？ ①●●●● ・ 初心者向けウォーキング講習会を開催して欲しい ●●●

		<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングを始めたいが体力的に持つか心配。どこで初心者向けのイベントがあるかの情報が足りない●●●
ウォーキング推進 キャンペーン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・マップはとても良い①①① ・PCで〇〇（地区）、ウォーキングと検索すれば、各区のマップが出てきて便利①● 	
健康づくりサポーター 一等派遣事業		<ul style="list-style-type: none"> ・若い人のグループへの派遣が少ないのでは？①①①● ・子育て中のお母さんなどにもっと働きかけてみてはどうか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・万歩計の貸し出しを行ってはどうか？万歩計をつけることでモチベーションがアップする。距離等も含め、PCやスマホでデータを検証できる情報大学では万歩計の貸し出しをやっていた。 ・公園にここまでで〇kmなどの表示やコース案内があり、コースもきれいに整備されており歩きやすい ・自転車とのコースが分かれておらず、怖い所もある ・信号が少なくウォーキングに適したコース（道路）がもっとあるとよい 	

< 2 グループ >

事業名	良い点	問題点
スポーツ推進委員	<p>< 知名度上がる > ●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌を代表するイベントになり、知名度が上がる 	<p>< もっと市民に身近な活動を > ●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域でもっと活躍する場があると良い ・一般市民が参加しやすいイベントなどにもチカラを入れてほしい ・委員会の存在自体知らなかった ・一般市民と繋がり薄く感じる ・市民が使いやすい身近な歩くコースなども必要
スポーツ事業促進助成	<p>< アスリート育成に重要で、子ども達に恩恵がある > ①●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリート育成に重要 ・ほとんど全ての子どもが恩恵を受けることができる 	<p>< 利用しやすい料金に（特にスキー場） > ①●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促進助成。市民プールをさらに安く ・小中学生へのスキー利用への補助 < マンネリ化 > ・制度の性格上仕方ないかもしれないがマンネリ化していないか

		<p><自然に親しむ視点を含めた事業支援を>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しむため白旗山での事業を続ける
学校開放事業運営	<p><誰でも利用できる>●●●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で誰でも利用できる ・好立地施設の有効活用 	<p><プール開放の日数が少ない>●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日数が少ない(小学校のプール開放) ・PTA管理方式だから? <p><運営を継続拡大できるか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理などを継続拡大できるか(深夜まで、開放頻度など)
オリンピックズキャラバン事業	<p><トップアスリートへの興味・関心につながる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃にトップアスリートと関わることで、スポーツを続けるきっかけとなる ・多くの人に興味関心を持ってもらえる 	<p><知名度が低い>●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの広報が少なく、知ることが出来ない ・知名度は高くない
ウォーキング実践指導ボランティア研修		<p><活躍する場が少ない>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修での学びを活かす場はウォーキング大会しかないのか ・ボランティアの方が活躍する場がもっと必要なのではないか
市民交流 ウォーキング大会		<p><回数を増やして、様々な年代が参加できるように>●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢層が高く参加しにくい ・回数を増やすことはできないのか
ウォーキング推進 キャンペーン事業	<p><身近で取組みやすい>①●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日目にするため、自然と階段を使う意識がつく 	<p><ウォーキングマップがどこでもらえるかわからない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップを手にする機会がないのではないか
健康づくりサポーター 一等派遣事業		<p><派遣実績が少ない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先が少ないのではないか
その他	<p><ウォーキングは身近で取組みやすい題材>①①①①●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングに着目するのは良い <p>※ウォーキング関連事業共通</p>	<p><身近に感じられる事業が少ない>①①①①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前にもなじみが薄い ・参加しやすいイベントが少ない <p>※ウォーキング関連を除く事業全体</p>

< 3 グループ >

事業名	良い点	問題点
スポーツ推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方向けの気軽な運動イベントに協力している① ・学校と連携している方もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの委員を知らない①①●
スポーツ事業促進助成	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをテーマに横に繋がりが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> < 体育協会・スポーツ少年団への加入のハードルが高い > ①① ・健康づくりや市民に身近な運動に対する支援でない①① ・申請が大変な割に金額が少ない ・助成や加入条件が厳しい・わかりにくい●●●●●
学校開放事業運営	<p>< 学校は身近な拠点：誰もが使いやすくすれば可能性がある > ●●●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開放事業に関わっている団体が地域の連携づくりをしている ・近所の人が参加できる 	<p>< 気軽に参加できる印象がない > ●●●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前申請や登録が必要 ・申請が大変 ・『特別な団体』だけが使えるという意識 ・仕事時間と重なり利用できない
オリンピックズキャラバン事業	<p>< 『本物』に会える > ①①①●●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域レベルの健康づくりやスポーツイベントで活用できる点が魅力 ・活用しないともったいない 	<p>< 知らない ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用の機会がわからない ・どこで誰が利用しているのか ・市から体育振興会に情報提供しているようだが、うまく伝わっていない。 ・実績 10 回は少ない
ウォーキング実践指導ボランティア研修	<ul style="list-style-type: none"> ・市民による運営を継続するために開催しやすい運営方法のバリエーションを研修するとよい① ・正しい歩き方を学べるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者 4 3 1 人は少ないのではない ・受講者が少な過ぎるのにいつまでも予算を付けてやるのか
市民交流 ウォーキング大会	<p>< 市民主体のウォーキング > ●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、自主的に継続的に行うためには運営が大変でない方法を 	<p>< ウォーキングだけがスポーツではない > ●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 3 0 0 人は少ないのではない
ウォーキング推進 キャンペーン事業	<p>< 好き・わかりやすい ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとにマップがあればよい（ベビーカールートなど）①①●●● ・マップづくりコンテストがあれば①●●● ・健康を意識するきっかけになる 	<p>< マップが知られていないのが残念 > ①①●●●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体でしかやっていないのがとてももったいない ・アプリとか

健康づくりサポーター 一等派遣事業		<食事についてもっと取り上げた らいいのでは>●● ・ <u>食事の改善アドバイスを充実させる必要</u>
その他	・スポーツや健康づくりに関する事業を重点的に進めている印象がない●	

< 4 グループ >

事業名	良い点	問題点
スポーツ推進委員	・委員がいることにより様々な企画が成り立っている①●	<市民に知られていない> ・情報がなかなか伝わってこない ・若い人が少ない ・人が足りていない <学生との連携が重要> ・ <u>大学とコラボし、スポーツ学科の学生に単位を与える</u> ①●●●●●●●
スポーツ事業促進助成		
学校開放事業運営	・多くの人が活用している ・スポーツに興味のある人は活用している●	<そもそも場所は足りているのか> ・申込が面倒であり、借りられる場所が抽選で遠方だと困る①①①●● ・学校の校庭も借りられると良い ・特定の方が使ってしまった印象がある①●
オリンピックズキャラバン事業	<継続してほしい> ・プロの選手に触れる機会は必要①●	・スキージャンプなどやや特殊な競技の誘致が難しそう①● ・特殊な競技選手に興味を持ってくれる子どもを掘り起こす為の事業展開ができるとよい①
ウォーキング実践指導 ボランティア研修		・若い世代の参加が少ない(若い人はウォーキングをやりたいのか)
市民交流 ウォーキング大会	ウォーキングを通じて各区を知れてよい①●●● ・ <u>歩いたコースをパンフレットやHPにして普及するとより良い</u> ①●	<もっと普及を> ・人気があるため、回数を増やしたりコースを普及させるなど、もっと事業が拡大すると良い ・大会中にウォーキング方法を学べると良い ・申込が先着だと同じ人ばかり参加してしまう● ・ <u>市と区の連携を強化する</u>

		<ul style="list-style-type: none"> ・参加した人の体験談を聞く、読めるようになる<u>と普及する</u>
ウォーキング推進 キャンペーン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・階段のカロリー表示はとても良い 取り組み①①●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての階段に設置してあると嬉しい ・情報の内容がそのままだと飽きてしまう● ・まち中にマップと連携してカロリー表示があるとよい●●●●
健康づくりサポーター 一等派遣事業	<p><良い取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと伸ばしてほしい①● 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知されていないのがもったいない● ・町内会自体が取り組みを知らないのではないか ・サポーターの登録人数などを上げてほしい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌マラソンは助成が出ても参加費が5000円と高め。もっと安くした方が良い。 ・札幌マラソンは興味があってもなかなか出られない。2回開催し、1回は市民のみにしてはどうか 	

● 市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

< 5 グループ >

事業名	良い点	問題点
<p>ノルディックスキー 札幌大会記念ウイ ンタースポーツ活 性化事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施による底辺の拡大につながる ・他県にアピールになっている ・市立学校ウインタースポーツ体験支援事業を通じ体験機会が増えた ・市立学校ウインタースポーツ体験支援事業でスキー学習に専門指導者が指導に参加するのは良い① ・指導団体をまとめる上で市が声かけをしているのは良い● 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手の活用が少ないのではないか● ・モデル事業導入の牽引効果は無かったのではないか ⇒ (市) カーリングの体験が学校の授業につながったり、「アスリートによる出前教室～ようこそ！ユキセン」事業がオリンピック派遣につながった ・魅力発信、PR はたぶん十分ではない。広報誌だけでは不十分、工夫が必要 ・ウインタースポーツは札幌のブランディングの一つ①●● ・コンテンツの質や満足度が高ければ、広まっていくのでは ・探検ツアーなど、スポーツ施設のPRは役だったのか？① ・ウインタースポーツミュージアムに子どもたちにもっと行ってもらう必要がある ・オリンピックが行われたことを知らない子どももいる。●● ・親、大人のニーズの吸い上げも必要① ・子どもをウインタースポーツにかかわらせるには、大人も楽しめる環境が必要● ・歩くスキー体験やスポーツキャラバンなど、身近な環境で雪に親しむ取組は、ステップアップなどがあれば次につながるのでは ・イグルーづくりや雪あそびなど、もっと雪に親しむ工夫ができるかも① ⇒ (市) 別の事業の中で、雪かきを冬休みにどれだけやったかを表彰している。① ・雪遊びなどの指標化、スポーツ化をするとおもしろいかも

地域スポーツマスター活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・資格にこだわらずボランティア指導者になってもらっている① 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア指導者はきちんと集まっているのか ⇒ (市) PR 不足なのか人が十分に集まっていない ・<u>ボランティアは学校が率先して集めた方がいいのではないか●</u> ・市よりも<u>地域でボランティア募集に取り組む方が広がりが出るのではないか●</u>
カーリング普及事業		<ul style="list-style-type: none"> ・<u>アピールが足りない</u> (道具、会場使用料等) ・<u>カーリング施設をもう少し増やしてはどうか①●</u> ・<u>講習会を多くしては</u> ・<u>毎年</u>の成果の経年変化を知りたい。<u>年齢別などデータを取って今後</u>に活かしては●
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・評価をするにあたり、「何をしたか」ではなく「<u>どういう成果が出ているか</u>」を知らないと、判断できない ・<u>成果をとらえるうえで、アンケートや経年変化は把握しているのか●</u> ・市民に身近な区役所と一緒に計画をつくるべきではないか 	

< 6 グループ >

事業名	良い点	問題点
ノルディックスキー札幌大会記念ウインタースポーツ活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・無料体験、出前体験の取組みが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>剰余金はいつか尽きる (スポンサーをとると良い)</u> ・<u>ウインタースポーツキャラバンの予算 200 万円/年は少ないのではないか</u>
地域スポーツマスター活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・指導資格が無くてもマスターになれるハードルの低さは良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツだけでなく、<u>「遊びマスター」</u>がいると良い①●
カーリング普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ・遅まきながら、<u>通年型のカーリング場を建設したことは評価できる</u>●● 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>5シートしかないカーリング場は小さい●</u> ・夏は氷の維持が高コストとなる (代替として、<u>リチウム電源のホバークラフトを用いてはどうか</u>)

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験していない事業なので評価できない。評価にあたっては、各事業への参加者の意見をもらった方が良い①● ・スポーツの専門的側面に偏った施策展開に留まっているため、<u>もっと一般の人が取り組み易い施策を実施してほしい●●●●</u> ・施設のランニングコストが高い（行政が管理すると高コストなので、<u>民営化すると良い</u>） ・札幌出身のオリンピックのメダリストは2人しかいない。その1人である里谷多英選手に注目し、<u>モーグルやフリースタイルスキーの環境を充実させてはどうか①①①</u> ・ウインタースポーツの推進には、<u>冬期の外出のハードルを下げる工夫が必要</u>（除雪などによるアクセス改善、無料送迎バスなど）①① ・シャワー室など、施設のアフター設備の整備が必要①
------------	--

IV. 第3回ワークショップの記録

開催日時：平成27年9月26日（土） 9:30～12:30

開催場所：札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目） 4階 大研修室A～C

1. プログラム

第3回ワークショップのプログラムは以下のとおりです。

第3回プログラム	
時間	内容
9:30～	開会
9:35～	本日のワークショップの目的と進め方
9:40～	前回のワークショップでの補足や訂正
9:45～	グループワークショップ 「前回のワークショップの振り返り」
9:55～	グループワークショップ 「市民目線で提案する改善点、市民の役割」
11:15～	休憩
11:25～	グループワークショップ 「行政評価シートにまとめよう」
11:55～	グループ発表
12:15～	閉会あいさつ
12:20～	アンケート記入のお願い
12:30	終了

2. 第3回ワークショップの目的

【改善の提案などを評価シートにまとめよう】

- ① 検討テーマ（論点）に関して、市民目線から見た改善提案と市民の役割を話し合う。
- ② 第2回と第3回のワークショップの結果を「行政評価シート」にまとめる。
- ③ 各グループの行政評価の結果を発表し共有する。

3. ワークショップ「市民目線で提案する改善点、市民の役割」

前回のワークショップでまとめたテーマに関連する事業の問題点をふまえて、どのように改善したら良いかの提案を出し合いました。さらに協働のまちづくりの視点から、テーマに関して市民が果たす役割についての提案を出し合いました。各グループの記録は次のとおりです。

テーマ① 「市民がスポーツや健康づくりに親しみ身近な環境づくり」 グループ1 (議論の詳細)

市民目線で提案する改善点、市民の役割

事業への提案:改善提案	テーマに関連したその他の提案	テーマに関連した協働の視点からの市民の役割
<p>スポーツ推進委員は公募制、様々な世代から人を集められる工夫し、地域で健康寿命を伸ばそうというムーブメントを起させる担い手に</p> <p>①①①</p> <p>スポーツ推進委員は町内会からの推薦だけでなく公募した方がよいのでは？意欲を持った方を探して行くべき。</p> <p>月額3500円を支払っているという範囲集について明確にオープンして行くべきだ</p> <p>良い人材は地域に眠っているのではない？</p> <p>特に若い人は今のシステムだと選ばれにくい。新しい事業が起きない。</p> <p>スポーツ推進委員専門の部署があっても良いのでは？</p>	<p>健康づくりセンターの運営は民間のマーケティング手法にも学ぶべき</p> <p>→ 定員を増やす</p> <p>健康づくり講座などの定員をもう少し増やす</p> <p>→ 1回無料券の配布</p> <p>健康づくりセンターの1回無料券を市民に配布してはどうか？利用する人が増え、健康に関心をもつ人が増えるかも</p> <p>群馬県中之条町の町あてでの健康づくりの取組に学ぶべき</p> <p>海外の長寿の国にも学ぶべき</p> <p>“健康寿命が長いまち”は良いまちというイメージを持たれる</p> <p>若いうちから健康寿命について考える意識付けを！</p> <p>若いお母さん同士が健康について考える場、若い人が高齢世代の人と話せる場があれば良い</p> <p>学校の授業で健康寿命をテーマに話し合ったり、高齢者の話を聞いたりしては？</p> <p>大学で健康づくりなどを研究している所とリンクして進めては？</p>	<p>市民は苦情だけでなく、日常感覚からの意見をもっと市に届けるべき</p> <p>今回のワークショップのような協働の場は市職員にとっても良かったのでは？普段、直接市民の声を聞くときは苦情が多いのではない？</p> <p>できれば具体的なアクションについても、もっと話して行きたい</p> <p>区なども少し小さく、単位でも市役所職員と市民が直接話せるワークショップの場を</p> <p>スポーツ推進委員に色んな世代の人がなって、健康づくりを盛り上げて行く</p> <p>自分もスポーツ推進委員になりたい</p> <p>医療機関との連携は？</p>
<p>ウォーキングで人数でやる宣伝効果のある大会をやれば大きな原動力に</p> <p>ウォーキングの大会はもっと人数が参加できるような大会を開催してはどうか？</p> <p>宣伝効果、ウォーキング推進の大きな原動力になるようなもの</p> <p>ボランティアももっと動員したら良い</p>	<p>金べ物に換算したカロリー表示もしては？</p> <p>金べ物のカロリー表示は公園のウォーキングコースにも取り入れてはどうか？</p> <p>各々に健康づくり推進の部署を → 今もある、でも市民の声を直接伝える場は？</p> <p>区単位で特色をもった健康づくり推進をウォーキング仲間づくりのお手伝いなどを区でやって欲しい</p>	<p>地下鉄階段のメッセージを改札から出入口にも</p> <p>地下鉄階段のメッセージは改札放りてから出入口までのところにつけて</p>

テーマ① 「市民がスポーツや健康づくりに親しみ身近な環境づくり」 グループ2 (議論の詳細)

市民目線で提案する改善点、市民の役割

事業への提案:改善提案	テーマに関連したその他の提案	テーマに関連した協働の視点からの市民の役割
<p>スポーツ推進委員一般の人に</p> <p>地域に眠っている元スポーツ選手などがもっと学校や一般の方に指導できる仕組みに大きなイベントだけではなく</p> <p>オリンピックキャラバン学校単位でも派遣</p> <p>学校単位でもアスリートを派遣して、子どもたちが「スゴイ！」と感じる、スポーツのきっかけとなるように</p> <p>ウォーキング関連事業に職員が参加子カホにも表示</p> <p>市の職員、区職員の人が、ウォーキングなどのイベントと一緒に参加して、一緒に汗を流してはどうか？</p> <p>子カホに距離とカロリー表示を</p>	<p>学校プール開放の充実を</p> <p>プール開放の日数増加 札幌の子どもはスイミングスクールに行かないと泳げるようになるに 管理体制の見直しが必要？</p> <p>プール開放の日数を増やす 小学生以外も使える日も作る</p> <p>カードにハンコが必要、ハードル高い、もう少し気軽に付けると良い</p> <p>プールの監視員 ボランティア研修 → 地域の中で増えたら良い</p> <p>スキー練習をもっと気軽に</p> <p>大きめの公園や学校のグラウンドなどで、気軽にスキーの練習などができると良い</p> <p>普段使っていない人も、体育館を利用できるように</p> <p>月に1〜2回程度は普段使っていない一般の人が参加できる身近な催しのために開放する体練など</p> <p>ラジオ体操の取組を推進</p> <p>ラジオ体操 企業で取り組む、指導者がまわってくる</p> <p>地域の公園や真休みだけではなく、大人が職場の近くなどで</p> <p>健診結果にオススメ運動をメニューに添える</p> <p>健診結果とともにオススメの運動メニューが配布される、運動施設などが安くなる</p> <p>現在でも、人間ドックを受けてデータを持って健康づくりセンターで健康測定を受けると、その後の利用料金が安くなる</p> <p>病院や健診の際に、ここでこんな運動ができるなど、具体的なことが書いてあるパンフレットがあると良い(現在は言葉や視覚的な内容が多い)</p> <p>健康づくりやスポーツ推進を行っている取組団体への支援をする</p>	<p>ボランティアリーダーを育成する地域、職場など多様な場所です</p> <p>①①①①</p> <p>ウォーキングなどのボランティアリーダーの役割が大切、地域と連携</p> <p>健康づくりに関するサポーターの裾野を広げる</p> <p>職場や買い物場所(スーパー)の方が、地域の町内会単位よりは参加しやすい</p> <p>日程が決まっていたり、負担にならないようにスポーツ経験やレベルが高なくても聞かれると良い</p> <p>健康ポイント制度をつくる</p> <p>万歩計を支給(ふり?)して、歩数をポイントにして貯める。健康ポイント制度</p> <p>運動とプラス(食や施設見学、仲間づくり)を組み合わせる</p> <p>季節ごとのツアーイベント</p> <p>運動と食などを結びつけたツアーを行う市内各地のコースがあって、楽しく友達づくりができる、季節ごとに</p> <p>札幌市で助成したり、ネットで広報をする</p>
<p>ウォーキング関連事業に職員が参加子カホにも表示</p> <p>市の職員、区職員の人が、ウォーキングなどのイベントと一緒に参加して、一緒に汗を流してはどうか？</p> <p>子カホに距離とカロリー表示を</p>	<p>若い人が(オンライン)参加できる婚活を推進！</p> <p>朝の1時帯を活用</p> <p>例えば、北の条広場でヨガ、オープンテラスで朝食など友達づくりにもなる</p> <p>定期的ないろいろな場所を</p>	<p>ボランティアといういろんなレベルで、できる範囲でスポーツ、健康づくりに関わる</p> <p>①</p> <p>スポーツの楽しさを伝え広める</p> <p>①</p> <p>身近な人に話す、興味ある人に広める</p> <p>①</p> <p>広報さっつまなどで活発な取組やイベントを紹介する</p> <p>市民がもっと聞かれるようにするためにも、情報発信は重要！</p> <p>スーパーなど身近な場所での札幌市の健康情報やイベント情報、仲間の募集の情報を得られると良い</p> <p>札幌市のHPで、スポーツイベントが全てわかるのとよい。終わったことがアップされるのではなく、体験した時に、これから行くイベントや公園施設の旬な情報が得られると良い</p>

テーマ② 「市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり」

グループ5 (議論の詳細)

市民目線で提案する改善点、市民の役割

ステップアップ→具
体的な仕組み

ステップアップ=競技として
の楽しさを深めていくこと
楽しむ→正しいやり方

事業への提案:改善提案

テーマに関連したその他の提案

テーマに関連した
協働の視点からの市民の役割

指導者と指導が必要
な人が結びついていない

スノーボードなど
他の競技の指導も
広げては

ウィンタースポーツに親しむ文化、雰囲気、ムーブメントをつくり出すことが大切

マスク、広告代理店なども連携

ウィンタースポーツ札幌ブランド
グ(提案)行政と民間(広告、技術者、
事業者など)との連携の推進

「からこしい」発信は、民間の力を借り
た方がよい

高付加価値のコンテンツを安く提供

共通のマークで事業や物販を展開も

大きな大会の誘致は関
心を高める
のに効果大
(ワールドカップ、
五輪)

どう展開していくか、民間と協議して運
動を作り上げていくと良い

民間との協力を進め、
ムーブメントをつくり出すことが大切

例)真フェス
若い人が音楽とアウトドア
を楽しみ、広がっている
→雪だけでなく、何かとア
ウトドアをこうさせる

スノボは音楽を取り入れて、
若い人を取り入れている

例)ボロクル、民間がレン
タル、行政は場所を貸す

PRとして、SNSの活用(民
との連携)(広告、インセ
ンティブ、市民目線での
関わり)

リアルタイムで発信でき
ると良い

SNSを活用し
個人の体験を発信

SNSで走った成果を見られ
る(記録)→共有できる→
そこから自分もやろうかな
と思ってもらえる

市と何が連携やバック
アップができるかというの
は

体をどれだけ動かしたか
見える化する工夫。心拍
計、どれだけ時間汗を
かいたか、ポイント化して
積みあげる

縦やかに
雰囲気を広げよう!

スポーツマスターは
地域で運営できる良い

学校が人材募集の取組を行い、
行政がそれをサポートする(周
知、お金等)

ボウ保険の補助をしたり、ク
レーム対応を行政が担うなど

学校の先生をその気にさせる
必要がある

地域ボランティアが運営できる
体制づくり

社協と協力して人材を育成して
いくのも良いのでは

達人、指導者とのマッチング取
組をしたい人、教えられる人と教
わりたい人を結びつける仕組み
(リスト、データベース)

人材育成マッチングも

子どもは、広
交換会は、ど
んどん広めて
いくと良い

行政には、広
交換会は、ど
んどん広めて
いくと良い

スキー場など利用にも必要

スキー場のリフト代(市の助成金で)
安くすると冬のスポーツに参加する人
が増えるのでは?

大人も楽しめるように
親子割引、宿泊施設の充実(民間?)
地域の愛好家団体への支援

「19歳ならたなど、わかりやすく対
象にメリハリをつけて

風景・景観の活用
→行政にしかできないこと!

ブランドングとして、まちづくり(風景、景観など)を活用

昔のオリンピック施設、古びていて売れているので、きれ
いに見せる工夫が必要

きれいに残すor取り壊す

雪に親しむ、雪に関わる風景をきれいにし、活用

例)滝縁の無い雪の風景

いろいろな雪遊びを伝え、
体験の機会をつくる

遊び、種目、情報
スノーシュー、ハイク、イ
グルフツクリ→スノーキャン
ピングなどが遊びのヒントになる情
報

スノーシュー、クロコなども
レンタル、体験できると良い

アウトドア推進、団体、民間
会社、NPOとの連携、活用

雪遊びスポーツ化して、
大会の企画(民間と連携)
学校、地域との連携

「雪遊びってこんなこと
できる」を発信

民間のメーカーなどと協
力できないか

「遊びの達人」

体験機会を得やすくする

道具遊びの支援
レンタル・リース安く
気軽に試せる仕組み

いろいろな道具を試せると
良いのでは...

中古の道具で安くレンタル
できるものがあると良い

健康づくりセンターを活用し、
冬のスポーツのための企画、
イベントを行う

身近で雪に親しむ機会をつくる

雪に親しむ機会、
もっと作る必要
あるのでは

例)山形
冬の運動会

公園、河川敷などでも遊べるよ
うな作りかた

安全なソリ遊び
場を各区分1つづ
つでも作っては

冬の公園は雪
捨て場
→雪山のある公
園を作り遊べる
ようにしては
→モデル地区

遊びに行く先として伝える
今ある施設の情報を

施設、遊び場所リスト、沢山選択肢ある
のでは、利用度、空いている施設がど
こにあるか分ると良いのでは

ウィンタースポーツミュージアムの活用案
として、都心部に移す、楽しめる企画を
する(オリンピック活用など)、PR、広告強化

休みの日に出かける先として施設をPR。
温み具合も含めて知らせる

親が楽しむことで、
子どもにも体験の
チャンスできる

遊びに行きたい人
×使われていない
施設

スポーツマスターを
もっと活用していく

今、体育の時間がどうなっているか分
からないが、運動場で雪かき、滑り、カ
マクラ等を作成して遊ぶさせる
競技会などを実施する

体育の授業から雪遊びを

指導者(資格に関係なく)近所の人に声
をかけて、体育の授業に参加してもら
う

市から広報して人材募集(信頼感ある)

「こんなことを手伝って」具体的にお願
いする内容を示すよ!

雪に親しむ、雪に関わる風景をきれいにし、活用

例)滝縁の無い雪の風景

いろいろな雪遊びを伝え、
体験の機会をつくる

遊び、種目、情報
スノーシュー、ハイク、イ
グルフツクリ→スノーキャン
ピングなどが遊びのヒントになる情
報

スノーシュー、クロコなども
レンタル、体験できると良い

アウトドア推進、団体、民間
会社、NPOとの連携、活用

雪遊びスポーツ化して、
大会の企画(民間と連携)
学校、地域との連携

「雪遊びってこんなこと
できる」を発信

民間のメーカーなどと協
力できないか

「遊びの達人」

体験機会を得やすくする

道具遊びの支援
レンタル・リース安く
気軽に試せる仕組み

いろいろな道具を試せると
良いのでは...

中古の道具で安くレンタル
できるものがあると良い

健康づくりセンターを活用し、
冬のスポーツのための企画、
イベントを行う

身近で雪に親しむ機会をつくる

雪に親しむ機会、
もっと作る必要
あるのでは

例)山形
冬の運動会

公園、河川敷などでも遊べるよ
うな作りかた

安全なソリ遊び
場を各区分1つづ
つでも作っては

冬の公園は雪
捨て場
→雪山のある公
園を作り遊べる
ようにしては
→モデル地区

テーマ② 「市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり」

グループ6 (議論の詳細)

市民目線で提案する改善点、市民の役割

事業への提案:改善提案

テーマに関連した
協働の視点からの市民の役割

テーマに関連したその他の提案

大通公園の活用
大通の歩くスキー体験は
もっと期間を長くしては?

スポーツの窓口を広く
→遊びも含めて多くの人が
参加できるように

公園への出前体験も、
地域からのリクエストでもっと実施して欲しい

公園の開放(冬季)
大通の歩くスキーは良い(1~3月続ける)

雪捨て場となった地域の公園を利用
例)雪山づくり、かまくら作り、雪の芸術作り

近くの公園での出前体験

残剰金にたよらない資金の確保が必要
スポンサーなど、企業のCSR費用ではなく
プロモーション費用を取り込む工夫が必要

残剰金など考えないでスポーツをする

ノルディックホカを入れていくのだが...

アルペンスキーの普及・強化がもっと必要
スキー場などの場は車まわっているが指導者
が不足している

ノルディックの活性化にあわせ、アルペン
スキーの普及、強化も必要ではないか

競技大会をイベント化して見に行く
機会を作る

競技会や大会をイベント化する。
「見に行く」(外出させる)

身近な冬の遊びや学び
を普及・活性化

外国人の雇用、オーストラリア、ニュージーランド、
カナダの人は冬の遊びや学びが充実している

楽しいと市民も協力できる

外国(北ヨーロッパなど)の
冬の遊びを取り入れる

まずは楽しむ
ことから

遊びを知らない世
代が多くなった

自衛隊や
北大も

土日など未利用の時間多い...
利用条件もよくわからない

学校などの施設(グラウンドなどの管理
(ハード)と利用(ソフト)を分離して、多目的
な利活用を推進

施設(ハード)の管理とソフト(遊び、スポーツ)
の分離

未使用、非使用の空間、施設を民間の知恵と
資金(スポンサー)

公共施設の利用できない条件は何か?(休日、
関係)

長期展望が無い、北大、自衛隊の施設

グラウンド(学校)の多目的利用(外はバスケット
などできないから)

指導者としての
ノウハウもある

自衛隊の
トレーニング施設の共有

自衛隊の体力体験

学校の先生にもっとウィンタースポーツに
参加して欲しい(しかし1,2,3月は先生は忙しい
時期) (学校)教育者の冬のスポーツへ参加

行政が地域の人と
学校などの間の窓口を担って欲しい

教育委員会の
責任の元では
自由に遊びを
展開できない

保険をしっかりと
検討する

カーリング施設を増やすために
企業などに働きかけて予算を確保しては

カーリング
施設を増やす必要あり、市内の企業体、事
業団体に働きかけてはどうか(予算の設定)

冬のマラソン大会
冬の競歩の大会など
誰でも参加しやすいスポーツをつくる

冬の健康づくりのための敷居の低く、
身近な環境でのスポーツが必要

自身のために健康づくりしたい

遊びマスターの育成が必要

遊びマスターの育成はどうするかの
問題(地域スポーツマスターの活用)

高齢者が子ども
関わる機会を増やす

年金世代はゲートボール
と病院待合室にコミュニ
ケーションを求めるとい
小学校などに参加して子ども
を開放せよ!

大通公園の活用
大通の歩くスキー体験は
もっと期間を長くしては?

スポーツの窓口を広く
→遊びも含めて多くの人が
参加できるように

公園への出前体験も、
地域からのリクエストでもっと実施して欲しい

公園の開放(冬季)
大通の歩くスキーは良い(1~3月続ける)

雪捨て場となった地域の公園を利用
例)雪山づくり、かまくら作り、雪の芸術作り

近くの公園での出前体験

残剰金にたよらない資金の確保が必要
スポンサーなど、企業のCSR費用ではなく
プロモーション費用を取り込む工夫が必要

残剰金など考えないでスポーツをする

ノルディックホカを入れていくのだが...

アルペンスキーの普及・強化がもっと必要
スキー場などの場は車まわっているが指導者
が不足している

ノルディックの活性化にあわせ、アルペン
スキーの普及、強化も必要ではないか

競技大会をイベント化して見に行く
機会を作る

競技会や大会をイベント化する。
「見に行く」(外出させる)

身近な冬の遊びや学び
を普及・活性化

外国人の雇用、オーストラリア、ニュージーランド、
カナダの人は冬の遊びや学びが充実している

楽しいと市民も協力できる

外国(北ヨーロッパなど)の
冬の遊びを取り入れる

まずは楽しむ
ことから

遊びを知らない世
代が多くなった

自衛隊や
北大も

土日など未利用の時間多い...
利用条件もよくわからない

学校などの施設(グラウンドなどの管理
(ハード)と利用(ソフト)を分離して、多目的
な利活用を推進

施設(ハード)の管理とソフト(遊び、スポーツ)
の分離

未使用、非使用の空間、施設を民間の知恵と
資金(スポンサー)

公共施設の利用できない条件は何か?(休日、
関係)

長期展望が無い、北大、自衛隊の施設

グラウンド(学校)の多目的利用(外はバスケット
などできないから)

指導者としての
ノウハウもある

自衛隊の
トレーニング施設の共有

自衛隊の体力体験

学校の先生にもっとウィンタースポーツに
参加して欲しい(しかし1,2,3月は先生は忙しい
時期) (学校)教育者の冬のスポーツへ参加

行政が地域の人と
学校などの間の窓口を担って欲しい

教育委員会の
責任の元では
自由に遊びを
展開できない

保険をしっかりと
検討する

カーリング施設を増やすために
企業などに働きかけて予算を確保しては

カーリング
施設を増やす必要あり、市内の企業体、事
業団体に働きかけてはどうか(予算の設定)

冬のマラソン大会
冬の競歩の大会など
誰でも参加しやすいスポーツをつくる

冬の健康づくりのための敷居の低く、
身近な環境でのスポーツが必要

自身のために健康づくりしたい

遊びマスターの育成が必要

遊びマスターの育成はどうするかの
問題(地域スポーツマスターの活用)

高齢者が子ども
関わる機会を増やす

年金世代はゲートボール
と病院待合室にコミュニ
ケーションを求めるとい
小学校などに参加して子ども
を開放せよ!

4. ワークショップ「行政評価シートにまとめよう」

グループごとに話し合われた、事業の提案（改善提案、市民の役割）について「行政評価シート」にまとめ、その内容を発表して参加者とテーマに関係する市職員で共有しました。

各グループの行政評価シートの内容は次のとおりです。

行政評価シート		【1】グループ					
施策情報							
評価対象施策	スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進						
検討テーマ（論点）	市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり						
関連する事業名	スポーツ推進委員、スポーツ事業促進助成、学校開放事業運営、オリンピックズキャラバン事業 ウォーキング実践指導ボランティア研修、市民交流ウォーキング大会、ウォーキング推進キャンペーン事業、健康づくりサポーター等派遣事業						
市民参加ワークショップの意見							
市民目線から見た現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりセンターをもっと利用しやすく（仕事帰りにも行けるように遅い時間まで、利用者にやさしい対応を、利用料金の価格調査など民間のマーケティングを参考に） スポーツ大会などのお知らせがたくさんの人に届かない スポーツ施設に通うのに交通費がかかる 						
	学校開放事業運営	オリンピックズキャラバン事業	市民交流ウォーキング大会	ウォーキング推進キャンペーン事業	健康づくりサポーター等派遣事業	その他	
事業の評価：良い点	・身近な施設を安く利用できるのは良い			・マップはとても良い ・各区のマップもHPにあって便利		<ul style="list-style-type: none"> 冬季オリンピックは市民にとって大きな刺激になった 公園などに快適に整備されたウォーキングコースがある ウインタースポーツにかかる費用が高い 	
事業の評価：問題点	・同じグループが押さえていてなかなか予約が取れない	・町内会や体育振興会のイベントだけでは人数が少ない	・参加できる人数が少ない ・どこで初心者向けのイベントをやっているか情報が足りない		・若い人のグループへの派遣が少ない		
事業への提案：改善提案	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員は公募制にし、年代・性別を区切って募集し、地域で「健康寿命を延ばそう」というムーブメントの担い手に（スポーツ推進委員専門の部署があっても良いのでは？） 地下鉄階段のメッセージを改札から出入口にも入れる。食べ物に換算したカロリー表示もしては？ 						
テーマに関連したその他の提案	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりセンターの運営は定員や料金など民間のマーケティング手法に学び、1回無料券を市民に配布するなど、裾野を広げる工夫を。 区単位で特色をもった健康づくりの推進をして、ウォーキングの仲間づくりの手助けも区でやってほしい。 区などもう少し小さな単位でも市職員と市民が直接話せる場（ワークショップなど）を開催してほしい。 札幌は健康寿命の長いまちというイメージを持ってもらう。そのために他市町村に学ぶ、他国に学ぶ。若い人が健康寿命について同世代や高齢世代と話せる場を！授業でも。 						
テーマに関連した協働の視点からの市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 市職員と市民が直接話せる場（ワークショップなど）で声を届ける。 スポーツ推進委員に色々な世代の人がなって、地域の健康づくりを盛り上げていく。 						

行政評価シート		[2] グループ							
施策情報									
評価対象施策	スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進								
検討テーマ(論点)	市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり								
関連する事業名	スポーツ推進委員、スポーツ事業促進助成、学校開放事業運営、オリンピックズキャラバン事業、ウォーキング実践指導ボランティア研修、市民交流ウォーキング大会、ウォーキング推進キャンペーン事業、健康づくりサポーター等派遣事業								
市民参加ワークショップの意見									
市民目線から見た現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運動できる施設や環境がある反面、運動する機会が少ない ・特に若い人には「健康づくり」という意識があまり無い ・1人では運動しにくいいため、運動するきっかけとなるような取組が必要 ・健康づくりの取組を行っている団体が継続できるような支援が必要 ・運動していない人の掘り起こし策や病院からの予防的なアプローチも必要 ・「仲間と楽しく体を動かすと、体も心も健康になる！」というPRを、もっとしていくと良い 								
	スポーツ推進委員	スポーツ事業促進助成	学校開放事業運営	オリンピックズキャラバン事業	ウォーキング実践指導ボランティア研修	市民交流ウォーキング大会	ウォーキング推進キャンペーン事業	健康づくりサポーター等派遣事業	その他
事業の評価：良い点	・札幌マラソンの知名度が上がる	・アスリート育成に重要で、子ども達に恩恵がある	・誰でも利用できる	・トップアスリートへの興味・関心につながる			・身近で取組みやすい		・ウォーキングは身近で取組みやすい題材
事業の評価：問題点	・もっと市民に身近な活動を	・利用しやすい料金に(特にスキー場) ・マンネリ化 ・自然に親しむ視点を含めた事業支援を	・プール開放の日数が少ない ・運営を継続拡大できるか	・知名度が低い	・活躍する場が少ない	・回数を増やして、様々な年代が参加できるように	・ウォーキングマップがどこでももらえるかわからない	・派遣実績が少ない	・身近に感じられる事業が少ない
事業への提案：改善提案	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放事業の中で、プール開放の日数を増やしてもっと気軽に利用できるようにする。また、現在PTAが行っている監視員は地域のボランティアを育成するなど、体制を強化する。 ・ウォーキング推進キャンペーンの中で、地下鉄階段のような距離やカロリーなどの表示をチカホにも表示する。 ・札幌市や区役所の職員の方々へ、ウォーキングイベントやスポーツイベントへの参加を促す。 								
テーマに関連したその他の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや健康づくりに主体的に取り組む人を増やす。地域や町内会単位以外でも取り組める場所があると良い。(スポーツ経験が少ない人や、レベルが高くない人も) ・運動とプラスα(食や施設見学など)を楽しめるツアーなどの取組が行われるよう支援する。 ・若い人がオシャレに参加できる朝活を推進する。たとえば、北3条広場でヨガをして、オープンテラスで朝食など。様々な場所で行われるようになって良い。 ・広報さっぽろにもスポーツを楽しむ市民の取組やコラムが紹介されると良い。 								
テーマに関連した協働の視点からの市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に話すなど、スポーツの楽しさを伝え、広める。 ・出来る範囲でスポーツや健康づくりの取組に関わる。いろいろなレベルに合わせて負担無く関わられるようにする。 								

行政評価シート

[3] グループ

施策情報

評価対象施策	スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進
検討テーマ（論点）	市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり
関連する事業名	スポーツ推進委員、スポーツ事業促進助成、学校開放事業運営、オリンピックズキャラバン事業 ウォーキング実践指導ボランティア研修、市民交流ウォーキング大会、ウォーキング推進キャン ペーン事業、健康づくりサポーター等派遣事業

市民参加ワークショップの意見

市民目線から見た現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が「できない」「してない」方の理由に着目した支援が必要である ・子育て世帯が「楽しく」「ポジティブに」運動していると実感できる機会づくりが大切である ・意識づくり、モチベーション、気持ちの余裕をどう作るかが大切である ・健康づくりに関する情報の受け手が受けとりやすい工夫があるとよい ・一緒に参加できる仲間がいるとよい ・健康づくりの前提として、医療的支援が受けられない人への対応の充実も並行する 								
	スポーツ推進委員	スポーツ事業促進助成	学校開放事業運営	オリンピックズキャラバン事業	ウォーキング実践指導ボランティア研修	市民交流ウォーキング大会	ウォーキング推進キャンペーン事業	健康づくりサポーター等派遣事業	その他
事業の評価：良い点	・地域向け運動イベントを企画している	・横のつながりをつくるスポーツ振興を支援している	・地域の拠点である学校で健康づくりができる	・本物に会える ・地域レベルのイベントで活用できる事業	・開催継続のために負担が軽くなる運営方法を研修すればよい	・市民主体で運営している	・わかりやすく健康を意識するきっかけになる		・スポーツや健康づくりに関する事業を重点的に進めている印象がない
事業の評価：問題点	・身の回りの委員を知らない	・助成条件が厳しい ・申請が大変だがメリットが少ない	・特定の団体しか使えない印象がある	・あまり活用されていない	・受講者が少ないのではない	・参加者が少ないのではない	・マップが知られていないのが残念	・食事による健康づくりの視点が足りない	
事業への提案：改善提案	<ul style="list-style-type: none"> ・＜健康づくりサポーター等派遣事業＞運動のステップアップのトータルコーディネートを支援する仕組みがあると良い！ ※一度運動したが、その後「何をしたらよいかわからない」から続かない ※既存活動団体の情報も提供したり、活動団体をつなぐ健康づくりの「ハブ役」をつくる ※サポーターを増やす、サポーターを選択できる、サポーターの家（拠点） ・＜ウォーキング事業＞ウォーキングの「事後」の効果を「生の声」としてPRする。 ※事後の効果をフォローするアンケートを実施して生の声を集める（定期的）＞終了直後のアンケート ※「産後ダイエットになった」「病院に行く回数が減った」など人を惹き付けるメッセージでPR 								
テーマに関連したその他の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに関する情報提供の方法に工夫とバリエーションを！ ※郵便・タウン誌、WEB、SNS、アプリ、媒体、ラジオなどを活用する ※登録制などを活用して興味分野や内容が届く仕組みをつくる ・拠点施設も大切だけど、身近な場所の健康づくりスポットを増やす ※例：バス停・小さな公園の健康遊具 ・事業成果の「わかりやすい指標」と、成果報告の方法を工夫すると市民も評価しやすい！！ ・健康づくりに力をいれている企業がメリットがあるような仕組みづくり（認定など）を整える！ ※社員向け、地域向けに取り組む企業 ※ポイント制度の導入！（限定品がもらえる、割引される） ・「運動ですよ運動」を民間と協力して展開！ ※買物などの日常行動が運動になることへの気づきを！ ※例：お店一周で何 kcal という表示 ・多世代、色々なライフスタイルの方が集まり健康や運動について話し合える今日のような場を！ 								
テーマに関連した協働の視点からの市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりサポーター制度をもっとうまく活用しよう！ ※町内会単位、マンション単位で活用する。すこやかクラブと連携する 								

行政評価シート

[4] グループ

施策情報

評価対象施策	スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進
検討テーマ(論点)	市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり
関連する事業名	スポーツ推進委員、スポーツ事業促進助成、学校開放事業運営、オリンピックズキャラバン事業ウォーキング実践指導ボランティア研修、市民交流ウォーキング大会、ウォーキング推進キャンペーン事業、健康づくりサポーター等派遣事業

市民参加ワークショップの意見

市民目線から見た現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民がスポーツをする上での支えとなる施設・情報提供が必要 公園で球技が不可など、近隣に子どもが遊べる場所が少なくなっている スポーツ施設の利用にお金がかかる 「スポーツイベント」は気軽さがなく、市民にとってなかなか自分ごととならない イベントや講座など、情報をどこで得られるか把握しないと参加できない 町内会等小さな単位でのスポーツイベント情報を多くの住民が把握できていない
---------------	--

	スポーツ推進委員	学校開放事業運営	オリンピックズキャラバン事業	ウォーキング実践指導ボランティア研修	市民交流ウォーキング大会	ウォーキング推進キャンペーン事業	健康づくりサポーター等派遣事業	その他
事業の評価：良い点	<ul style="list-style-type: none"> 委員がいることにより様々な企画が成り立っている 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方が実際に活用している スポーツに興味のある方が使用している 	<ul style="list-style-type: none"> プロの選手と触れ合える機会は必要であり、継続してほしい 		<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングを通じ、各区の見どころを知れる点が良い 	<ul style="list-style-type: none"> 階段のカラー表示はともよい取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 良い取り組みなので、もっと事業を拡大してほしい 	
事業の評価：問題点	<ul style="list-style-type: none"> 市民に知られていない 若い人が少ない 人材不足が知られていない 	<ul style="list-style-type: none"> 申し込みが面倒 会場が抽選で遠方だと困る 校庭も使用できるとよい 特定の人を使用している 	<ul style="list-style-type: none"> ジャンプなどやや特殊な競技での派遣が難しそう 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代の参加が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 人気があり先着順の為、参加できない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄駅全駅に設置してほしい 記載内容が更新されないと飽きてしまう まち中での実施はないのか 	<ul style="list-style-type: none"> 周知不足がもったいない 多くの町内会が取り組みを知らないのではないか サポーターの人数を増やしてほしい 	
事業への提案：改善提案	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員の不足に対応するために、体育系の大学とコラボして学生を活用しよう！（※単位を与えてあげたら学生にとってもウマミあり！） 学校開放事業の場所の不足に対応するために、グラウンドや廃校・空き施設などを活用しよう！→子どもが安心して遊べるよう、見守りをシニア世代（地域の方）等に任せる！ ウォーキング大会や札幌マラソン等に市民が平等に参加できるよう、開催回数を増やそう！ 上を歩くと発電する「発電マット」を企業とコラボレーションで設置する、市民に募集して階段にメッセージを設置するなど、楽しく健康のために階段を歩いてもらう仕組みを作ろう！ 							
テーマに関連したその他の提案	<ul style="list-style-type: none"> 市民1人1人が持つ札幌市発行の「健康手帳」をつくり、スポーツイベント等のスケジュール管理、健康の目安等を管理できるようにし、企業コラボでポイント集めもできるようにしよう！ 「スポーツ」をスポーツ事業に留まらず、人口減少、少子化対策、政策づくり等、様々な事業や考え方などで大きく捉え、活用していこう！ 							
テーマに関連した協働の視点からの市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 半径500mくらいで誰でも訪れ参加できるコミュニティづくりを進めよう！（既存施設（区民センター、地区センター、地区会館など）の活用も） 市民側で自発的にスポーツに参加する意識づくりを進めよう！ 「スポーツ」を通じて、シニア世代と若い世代が共に支えあえる相互の関係づくりを進めよう！ 							

行政評価シート

[5] グループ

施策情報	
評価対象施策	ウィンタースポーツの活性化について
検討テーマ(論点)	市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり
関連する事業名	ノルディックスキー札幌大会記念ウィンタースポーツ活性化事業、地域スポーツマスター活用事業、カーリング普及事業

市民参加ワークショップの意見

市民目線から見た現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が不足しており、基礎の技術が習得できず、楽しめない ・気軽に行って活用できそうな場所が活用されていない ・道具を揃える費用が高く、また、どの道具が適しているかわからない ・冬に体を動かすモチベーションづくりが不足している ・雪遊びや雪かきなど、遊びを活用する視点が大切 ・取組のPRが不足している ・施設の利用料金や交通費が高い 			
	ノルディックスキー札幌大会記念ウィンタースポーツ活性化事業	地域スポーツマスター活用事業	カーリング普及事業	その他
事業の評価：良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施が底辺拡大になる ・他県にアピールになっている ・体験機会が増えた ・専門指導者がスキー学習の指導をするのは良い ・指導団体をまとめる上で市が声かけをしているのは良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格にこだわらずボランティア指導者になってもらっている 		<ul style="list-style-type: none"> ・どういう成果が出ているかわからないと評価の判断ができない ・成果をとらえるうえで、アンケートや経年変化は把握しているのか ・市民に身近な区役所と一緒に計画をつくるべきではないか
事業の評価：問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手の活用が少ないのではないか ・魅力発信、PRは十分ではない。 ・ウィンタースポーツ施設を通じたさらなる啓発が大切 ・身近な環境で雪に親しむ取組からのステップアップが大切 ・もっと雪に親しむ工夫が可能では(遊びの指標化、スポーツ化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市よりも学校や地域でボランティア募集に取組む方が広がりが出るのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリングのPRが足りない ・カーリング施設をもう少し増やしては ・講習会を増やしては ・成果の経年変化を見ていく必要がある 	
事業への提案：改善提案	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツマスターをもっと活用していく。募集の他、ボランティア保険などの支援を充実させる。(学校の授業での体験は大切！) ・いろいろな「雪遊び」を伝え、体験の機会を増やす。遊びのルールづくりや大会の企画・実施なども行っていく。 			
テーマに関連したその他の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィンタースポーツのムーブメント、ブランディングを民間会社と連携して、オール札幌で展開していく。(活性化協議会の役割強化など) ・大きな大会の誘致で、市民のウィンタースポーツへの関心を高める。 ・雪に親しむ、雪に関わる風景を綺麗にして、活用していく。 ・冬遊び情報を充実させ、リアルタイムで発信していく。SNSを活用する。 ・スポーツマスターが将来的に地域で運営できるよう、人材育成やマッチングの仕組みができるとう良い。 			
テーマに関連した協働の視点からの市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツマスターは将来的に地域で運営できるようにしたら良い。 			

行政評価シート

[6] グループ

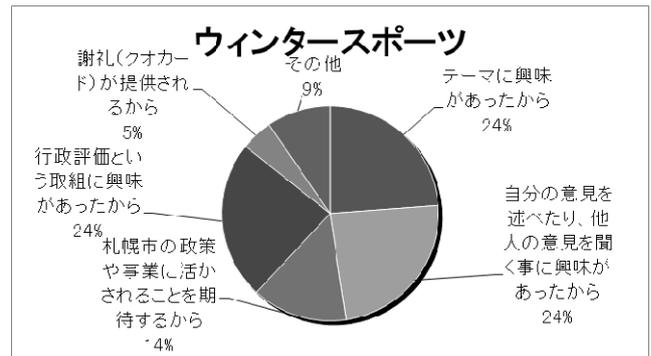
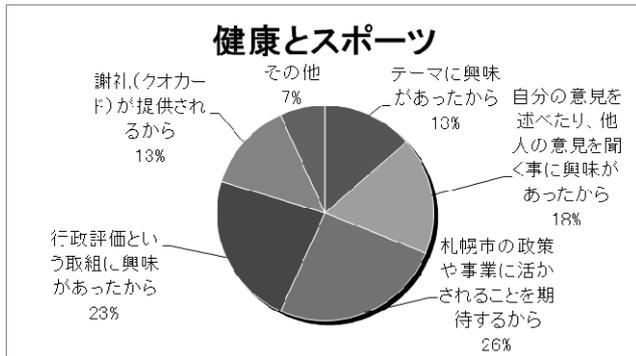
施策情報				
評価対象施策	ウィンタースポーツの活性化について			
検討テーマ(論点)	市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり			
関連する事業名	ノルディックスキー札幌大会記念ウィンタースポーツ活性化事業、地域スポーツマスター活用事業、カーリング普及事業			
市民参加ワークショップの意見				
市民目線から見た現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者不足 ・多くの人、多世代が楽しめるウィンタースポーツの種類が不足 ・身近な施設や空間の不足 			
	ノルディックスキー札幌大会記念ウィンタースポーツ活性化事業	地域スポーツマスター活用事業	カーリング普及事業	その他
事業の評価：良い点	・無料体験、出前体験の組み合わせが良い	・指導資格が無くてもマスターになれるハードルの低さは良い	・遅まきながら、通年型のカーリング場を建設したことは評価できる	・体験していない事業なので評価できない。 ・施設のランニングコストが高い
事業の評価：問題点	・剰余金はいつか尽きる ・ウィンタースポーツキャラバンの予算200万円は少ないのではないか	・スポーツだけでなく、「遊びマスター」がいと良い	・5シートしかないカーリング場は小さい ・夏は氷の維持が高コストとなる	
事業への提案：改善提案	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの間口を広く捉え、冬の遊びを伝える「遊びマスター」の認定制度を創設する。 ・北欧などの冬の遊びなどを取り入れるための外国人の参加を促進する。冬に外でご飯を食べたり、ファミリーで楽しむノウハウがあり、文化の交流にもなる。 ・ノルディックだけでなく、アルペンスキーの普及・強化を促進する（指導者の育成など）。 			
テーマに関連したその他の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・気候に恵まれた大都市のポテンシャルを活かしてほしい。大都市なので何をやっても多くの人に参加するポテンシャルがあるので、新しいことにどんどんチャレンジしてほしい。 ・学校（グラウンドや体育館）や公園（身近な公園・大通公園）などの公共施設の利活用を促進する。 ・学校施設の管理を、校舎とグラウンド・体育館に分け、グラウンド・体育館については指定管理等の仕組みを活用して管理する。学校として利用しない時間帯は、指定管理者の責任において、グラウンド・体育館を地域に開放し、地域のスポーツ施設として活用する。教育委員会の保険の適用範囲と学校開放の利用団体の保険の適用範囲を検証し、開放のリスクを管理する。 ・学校施設の開放においては、日曜日などにフリー参加（グループ参加ではなく）の時間を作ること、「1人でも参加できる」「自由に参加できる」「いつでも参加できる」が可能とし、参加のハードルを下げる。 ・自衛隊のトレーニング施設や隊員の指導者としてのノウハウを活用する。 ・北大の施設の活用も推進する。 ・企業などからの予算の確保策として、企業のCSR費用ではなく、額の大きいプロモーション費用の取り込みなどを検討する。 ・行政が地域と学校の窓口となり、高齢者が小・中学校の子どもたちと冬の遊びをする機会づくりを行う。 ・冬の外出のしやすさ、身近にスポーツできる環境づくりが大切なので、雪中競歩や冬のマラソン大会など、簡単にできて、楽しめる面白い行事の開催により、冬の健康づくりのためのスポーツへの参加を促進する（大会などがあると目標になる。参加賞を設けることもモチベーションにつながる）。公道の使用はハードルが高いため、はじめはスモールスタートで公園を活用する。例えば、モエレ沼を会場に、まずかんじきレース、次に歩くスキー、ウォーキングという順に開催すると雪も踏み固められて良いのでは。 			
テーマに関連した協働の視点からの市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が地域と学校の窓口となり、地域の高齢者が小・中学校の子どもたちと冬の遊びをする。高齢者が外に出る動機づけや、学校の負担を減らすことにつながるだけでなく、子どもの成長にもつながる。 			

V. 参加者アンケートのまとめ

ワークショップ終了後に記入いただいた参加者アンケートの結果は、以下のとおりです。

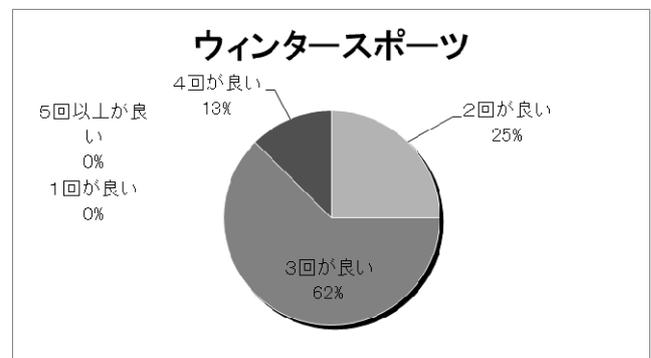
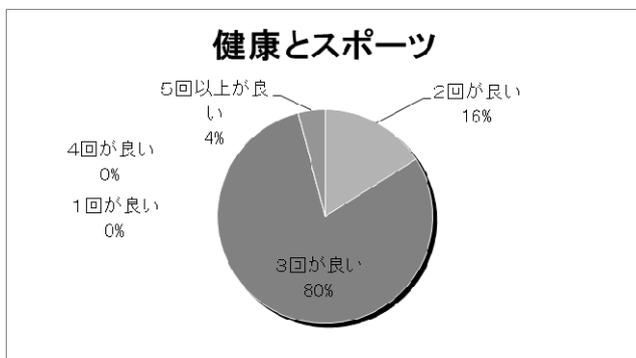
(アンケート回収数 テーマ①:25、テーマ②:8)

(1) 今回、市民参加ワークショップに参加する事を決めた理由は何ですか？あてはまるもの全てに○をつけてください。



(2) 今回の市民参加ワークショップの設定について、どのように感じられましたか？5段階のうちあてはまるもの一つに○をつけて下さい。

(2)-1 回数について



(2)-2 議論の時間について

